

平成26年度

事業報告書

社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団



## 平成26年度事業報告書目次

	ページ	
1. 概況	-----	1
2. 職員	-----	4
3. 組織	-----	6
4. 役員	-----	7
5. 会議等	-----	8
6. 研修	-----	10
7. 苦情解決処理状況	-----	11
8. 施設別事業実施の概要と評価		
(1) 秋田県北部老人福祉総合エリア	-----	12
(2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア	-----	15
(3) 秋田県南部老人福祉総合エリア	-----	18
(4) 秋田県高清水園	-----	26
(5) 秋田県心身障害者コロニー	-----	31
(6) 地域生活支援センターみずばやし	-----	37
(7) 秋田県阿桜園	-----	41
(8) やまばと園	-----	45
(9) 秋田県身体障害者更生訓練センター	-----	49
(10) 秋田県点字図書館	-----	54



## 1. 概況

### (1) 指定管理への対応

#### ① 県の第二期（平成23年度～27年度）指定管理への対応

県所管課と運営協議会を開催するなど連携を図り、平成26年度事業計画等に基づき、県指定管理施設（北部老人福祉総合エリア・中央地区老人福祉総合エリア・南部老人福祉総合エリアコミュニティセンター・同老人専用マンション・点字図書館）について適正な運営に努め、概ね計画通り実施することができた。

#### ② 横手市及び湯沢雄勝広域市町村圏組合の指定管理への対応

横手市（横手市大森町生きがい創作館）、湯沢雄勝広域市町村圏組合（やまばと園）の各指定管理施設については、第三期（平成26年度～30年度）指定管理者として、関係機関と連携を図りながら適正な運営に努めた。

### (2) 県有施設の譲与及び貸付への対応

県から財政基盤を強化する支援を受けながら、平成26年度の事業計画を基本とし、譲与された1施設（みずばやし）及び無償貸付を受けている6施設（高清水園・心身障害者コロニー・阿桜園・身体障害者更生訓練センター・南部老人福祉総合エリア養護老人ホーム・同軽費老人ホーム）については、概ね計画通り実施することができた。

また、平成28年度以降の運営形態等について県所管課と協議を進めた。

### (3) 5ヵ年（平成23年から27年度まで）経営改善計画への取り組み

各施設において、平成24年8月に一部改訂した経営改善計画を基に、将来の安定した自立経営の確立に向け、目標値を設けて取り組んだ。

### (4) 施設の運営状況

#### ① 老人福祉総合エリアについて

県内及び隣県3県への営業活動を3エリア協同で分担して行うとともに、秋田駅東西自由通路内照式広告を新しくしたほか、ウェブサイト秋田県観光総合ガイドと秋田県スポーツ情報ステーションへの施設情報掲載を継続した。

北部エリアでは、新規事業として地域住民及び福祉施設職員を対象とした健康づくり教室を開催し、延べ350人（32回開催）の参加者があった。また、昨年度に引き続き、北鹿地域の小学校等への出張スポーツ体験教室を実施した。

中央エリアでは、芝生の養生中であった緑地運動広場を4月にオープンする中、利用者から要望のあったグラウンドゴルフ場としての整備や広く利用しやすいような料金割引等を実施し、1,359名の団体利用があった。

南部エリアの世代間交流事業では、新たに実施したガラスアート、パンケーキ、プラバン工作教室が好評で希望者が殺到し、急遽定員を増やすなどの対応を行った。

また、南部エリアの入居施設においては、利用者のニーズに基づいた個別支援計画の作成や利用者の状況に応じた居住環境の整備や訪問介護等の利用につ

いて情報提供などを行い、安全な日常生活を送ることができるよう支援に努めた。

## ② 障害福祉施設について

サービス管理責任者のもと、個別支援計画の作成やモニタリング等の実施により、利用者支援の充実を図りながら障害福祉サービスの提供に努めた。

高清水園では、職員の増員により支援体制の強化を図った他、次年度に向けた事業の見直しや検討を行い、利用者ニーズを基に生活訓練事業を廃止し、生活介護事業の定員を増やすなどサービス提供体制の整備を行った。

コロニーでは高齢化実態調査を踏まえ、利用者の介護や医療ケアの充実を図るため、職員の増員を図り支援体制の強化に努めた。

阿桜園では、これまで実施していた放課後や長期休業中の日中一時支援事業について、利用者支援の充実等を図るため「放課後等デイサービス事業」の実施に向けて、県等関係機関との協議を進めながらその体制整備を行った。

相談支援事業については、各施設に相談支援専門員を配置し、地域の障害者や家族等の相談支援業務（一般相談・計画相談・障害児相談）に取り組んだ。

また、サービス等利用計画作成の経過措置期限が今年度末であることから、サービス等利用計画作成件数が前年度比約2倍の事業所もみられた。

就労継続支援B型事業においては、営業活動を展開しながら収入増を図り、工賃向上計画に基づき、利用者の工賃アップに努めた。

## ③ 施設維持管理等について

施設設備の修繕等については、高清水園いぶき寮玄関及びトイレ修繕、コロニー赤光・银杏重度棟居室床張替、阿桜園車寄せ屋根及び玄関屋根改修工事、南部エリア養護老人ホームシリンダー錠取替工事等を行った。

また、高清水園空調設備改修、コロニー浄水設備修繕及び創生支援課空調設備改修、南部エリアコミュニティセンター屋上防水修繕について、県による大規模修繕工事が実施された。

## (5) 自主事業の取り組み

平成28年度開設予定の「由利本荘地域生活支援総合センター（仮称）」の、事業開始に向け、ワーキンググループによる検討会を定期開催し、利用者のニーズを踏まえた事業内容や建物設備等の検討を進めたうえ、用地を取得した。

地域密着型サービス外部評価事業については、65の事業所を対象に調査員各2名を派遣し、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等の評価を実施した。

南部エリアにおける居宅支援事業については、入居利用者の他、地域住民登録者を含め67名の利用登録者がおり、また市町村からの依頼により37件の介護認定の訪問調査を実施した。

障害福祉サービス事業所においては、共同生活援助事業（グループホーム）の体制強化に取り組むとともに、利用者が安心して地域生活を送ることができるよう、グループホーム利用者の健康管理の充実を図るため、新たに看護師を配置するなど支援体制の充実に努めた。

事業名	平成26年度利用状況(人数)	平成25年度利用状況(人数)
地域密着型サービス外部評価事業	65件	55件
居宅介護支援事業	806人	833人
訪問介護事業	8,075人	9,443人
共同生活援助事業〔定員〕	174人(36棟)	85人(18棟)
共同生活介護事業〔定員〕		89人(18棟)

※共同生活介護事業は平成26年度から共同生活援助事業へ統合

## (6) サービスの向上

ISO9001に準じた当事業団独自の「ハイクオリティサービス推進システム」(通称「まごころシステム」)について、システムの継続的改善(PDCA)を推進し、より良い福祉サービスの提供に努めた。また、「成年後見制度利用に係るマニュアル」や「サービス管理責任者業務マニュアル」等を整備し、利用者サービスの質の向上に役立てた。

各施設においては、一昨年度整備した非常時緊急時等のメール一斉送信システムを避難訓練等にも活用し、緊急時等の連絡体制の一層の強化に努めた。

## (7) 人材育成

研修実施計画に基づき、法人研修等の実施に積極的に取り組み、人材育成と職員の資質の一層の向上を図った。法人研修においては、「新会計基準移行に向けた事務職研修」や平成25年度の職員提案に基づく「精神障害の理解とコミュニケーションに関する研修」、県からの委託による研修「障害者虐待防止・権利擁護研修」等を実施した。また、強度行動障害等利用者支援に係る検討会を設置し、平成27年度から3か年を目途とする支援体制整備の実施計画を策定した。

また、業務の効率化とサービス向上を目的に、試行的に行っている人事考課の対象職員をこれまでの主査級以上の職員からすべての正職員に広げ、制度の理解と浸透を図りながら実施した。

## (8) 職員採用

定年退職等の補充を基本としながら、年齢構成の平準化を目的とした職員採用計画に基づき、県出資法人職員共同採用試験を実施し、福祉職19名を平成27年4月1日付けで採用した。

## (9) 社会貢献

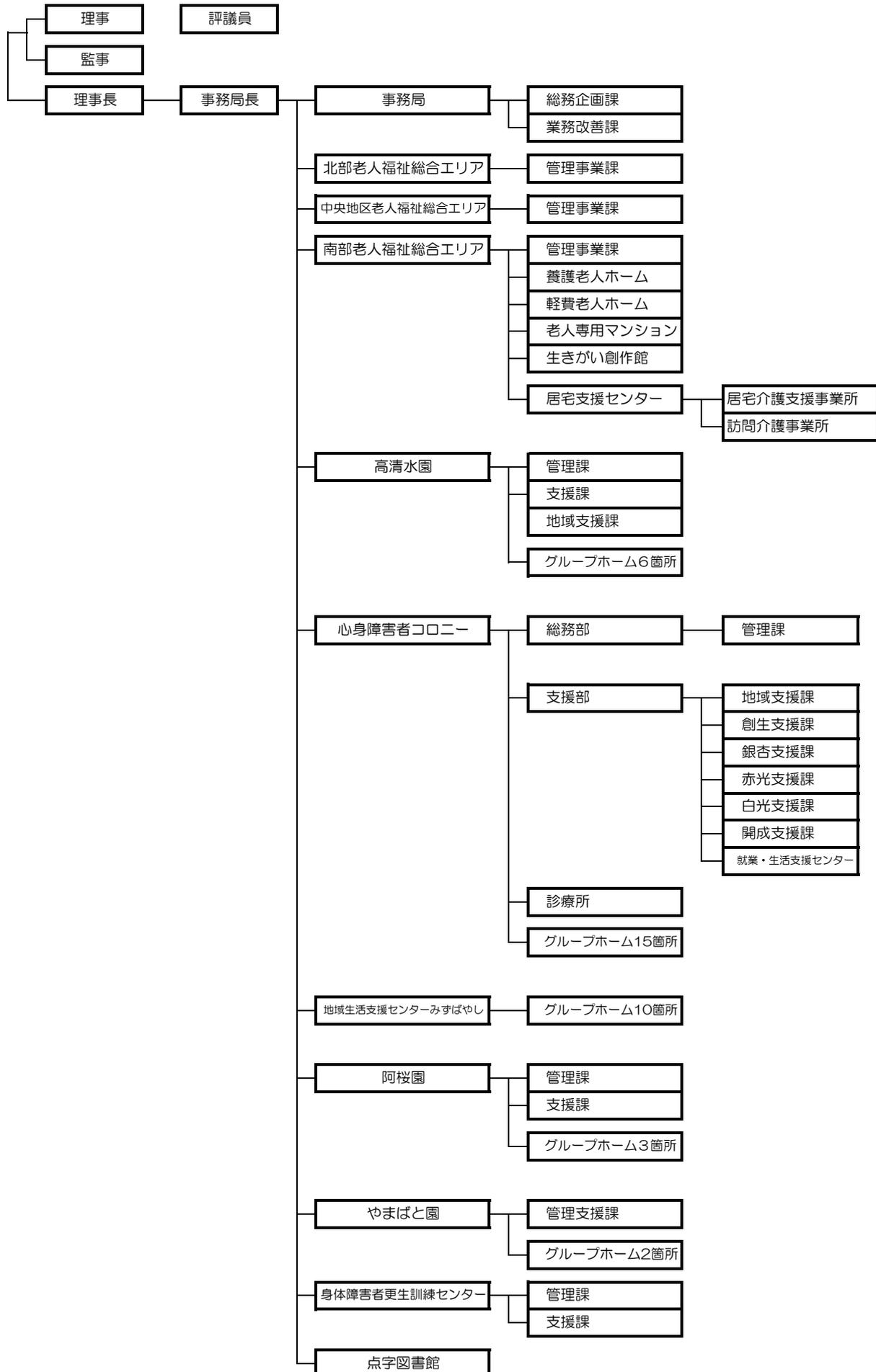
東日本大震災の被災地(岩手県釜石市)において、2回のボランティア活動を実施したほか、福島県相双地域等介護職員応援事業により、南相馬市の特別養護老人ホームに1名の職員を1ヶ月間派遣した。

また、強度行動障害に対する職員のスキルアップを図るため、法人職員のほか、県内の障害福祉事業所の職員や特別支援学校の教職員を対象に「強度行動障害研修」を実施した。



### 3. 組織

平成27年3月31日現在



施設一覽

平成27年3月31日現在

施設名	施設種別	所在地		定員(人)
秋田県北部老人福祉総合エリア	利用施設	大館市十二所字平内新田237-1	H11. 8. 1	宿泊定員 50
秋田県中央地区老人福祉総合エリア	利用施設	秋田市御所野下堤5丁目1-1	H 9. 8. 1	宿泊定員116
秋田県南部老人福祉総合エリア			S63. 7. 1	
コミュニティセンター	利用施設	横手市大森町字菅生田245-34	(S63. 7. 1)	宿泊定員 58
養護老人ホーム	老人福祉施設		(H 1. 2. 1)	50
軽費老人ホーム	老人福祉施設		(H 2. 7. 1)	50
老人専用マンション	利用施設		(H 3.10. 1)	24
横手市大森町生きがい創作館	利用施設		(S64. 1. 4)	—
指定居宅介護支援事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
指定訪問介護事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
秋田県高清水園	障害者支援施設 福祉型障害児入所施設	秋田市上北手猿田字苗代沢14-1	H 9. 4. 1	60
			H 9. 4. 1	40
グループホーム「結」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市広面字碓21-9	H14.10.1	5
グループホーム「みのり」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市広面字鬼頭109-3	H16.11.1	5
グループホーム「さくら」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市桜4丁目18-21	H18.5.1	5
グループホーム「あおぞら」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市上北手百崎字境田30	H20.4.1	6
グループホーム「彩」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市広面鍋沼57-8	H21.4.1	4
グループホーム「こまち」	共同生活援助(グループホーム)	秋田市仁井田二ツ屋二丁目12番42号	H25.10.1	6
秋田県心身障害者コロニー			S46. 4. 1	
創生支援課	障害者支援施設	由利本荘市西目町出戸字孫七山3-2	(S46. 5. 1)	100
銀杏支援課	障害者支援施設		(S47. 4. 1)	100
赤光支援課	障害者支援施設		(S48. 5. 1)	100
白光支援課	障害者支援施設		(S49. 1. 1)	100
開成支援課	障害者支援施設		(S49. 6. 1)	50
開成支援課	障害者支援施設		(S49. 6. 1)	50
診療所	診療所		(S49. 6. 1)	—
グループホーム「わかまつ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字新道下679-8	H11.10. 1	6
グループホーム「やすらぎ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町出戸字浜山3-183	H12.10.1	6
グループホーム「そよかぜ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字新道下2-92	H13.10.1	4
グループホーム「わかば」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字西潟346-14	H16.2.1	4
グループホーム「はまなす」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字新道下2-697	H17.4.1	4
グループホーム「まつかぜ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字新道下2-415	H21.11.1	6
グループホーム「しおさい」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町出戸字浜山3-119	H23.4.1	5
グループホーム「あおぞら」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田字西潟315-4	H13.10.1	4
グループホーム「お月森」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町海土剱字海土剱下52-48	H16.4.1	5
グループホーム「ひだまり」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町海土剱字海土剱下57-1	H16.4.1	5
グループホーム「やまと」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町沼田新道下744-7	H24.1.1	4
グループホーム「なでしこA」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町海土剱字海土剱57-1	H24.1.1	4
グループホーム「なでしこB」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町海土剱字海土剱57-1	H24.1.1	5
グループホーム「かもめ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町出戸字浜山3-223	H24.9.1	5
グループホーム「はまやま」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市西目町出戸字浜山3-261	H25.3.1	5
地域生活支援センターみずばやし	障害福祉サービス事業所	由利本荘市調練場1-1	H24.1.1	30
グループホーム「翼」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市薬師堂字山崎145-7	H 2. 4. 1	4
グループホーム「清和」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市石脇字田尻野31-8	H 4. 4. 1	5
グループホーム「めぐみ」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市水林402-22	H 7. 4. 1	5
グループホーム「朋」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市出戸町字赤沼下道36-18	H11.10. 1	5
グループホーム「虹」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市石脇字田尻28-20	H23.7.1	4
グループホーム「そら」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市御門1番地2	H23.12.1	5
グループホーム「三愛A」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
グループホーム「三愛B」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
グループホーム「菖蒲」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市給人町70-5	H 9.10. 1	5
グループホーム「若菜」	共同生活援助(グループホーム)	由利本荘市水林365	H12.10.1	5
秋田県阿桜園	障害者支援施設 福祉型障害児入所施設	横手市赤坂字仁坂105	H 2. 4. 1	70
			S39.4.25	50
グループホーム「希望」	共同生活援助(グループホーム)	横手市婦気大堤字南巻114	H 6. 4. 1	4
グループホーム「あさひ」	共同生活援助(グループホーム)	横手市朝日が丘3丁目4-1	H16.1.15	4
グループホーム「あざみ」	共同生活援助(グループホーム)	横手市婦気大堤字平林1-104	H23.4.1	5
湯沢雄勝広域市町村圏組合 やまばと園	障害者支援施設 福祉型障害児入所施設	湯沢市三梨町字飯田二ツ森43	H15.4.1	50
			S49.10. 1	10
グループホーム「ぼってりー」	共同生活援助(グループホーム)	湯沢市湯ノ原2丁目6-31	H 21. 4. 1	5
グループホーム「のどか」	共同生活援助(グループホーム)	湯沢市荒町7-2	H 23. 4. 1	5
秋田県身体障害者更生訓練センター	障害者支援施設	秋田市新屋下川原町2-3	S55. 7. 1	60
秋田県点字図書館	視聴覚障害者 情報提供施設	秋田市土崎港南3丁目2-58	S60. 4. 1	—

## 4. 役員

### (1) 平成26年度の役員体制

(平成26年6月1日現在)

役職名	氏名	現(元)職名
理事長	武田哲也	元秋田県秋田地域振興局長
理事	柴田一宏	柴田一宏法律事務所長
理事	太田春海	秋田県民生児童委員協議会会長
理事	高橋美岐子	日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科長
理事	佐々木 繁	社会福祉法人秋田県社会福祉協議会常務理事
理事	梅井一彦	秋田県健康福祉部長
理事	三浦 洋	秋田県心身障害者コロニー管理者
監事	前田正人	前田公認会計士事務所長
監事	田中政博	元秋田市財政部長

### (2) 平成26年度の評議員体制

(平成26年11月1日現在)

役職名	氏名	現(元)職名
評議員	遠藤博之	秋田県立療育機構理事長
評議員	榎本義孝	秋田県老人クラブ連合会会長
評議員	伊藤英紀	秋田県身体障害者福祉協会会長
評議員	谷内和夫	秋田県手をつなぐ育成会会長
評議員	田沼昭男	秋田県社会福祉法人経営者協議会会長
評議員	高島幹子	秋田県看護協会会長
評議員	和田士郎	秋田県社会福祉士会会長
評議員	柴田 博	秋田看護福祉大学福祉学科教授
評議員	藤本和宏	横手市副市長
評議員	石川 裕	由利本荘市副市長
評議員	渡辺久子	社会福祉法人秋田けやき会 ケアハウスウエルハウス御所野施設長
評議員	進藤忠雄	秋田県高等学校長協会特別支援学校部会長
評議員	成田公哉	秋田県健康福祉部福祉政策課長
評議員	神谷長一	秋田県阿桜園保護者会会長
評議員	熊谷公彦	秋田県高清水園園長

## 5. 会議等

### (1) 評議員会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成26年 5月20日	中央地区老人福祉総合 エリア多目的ホール	1 平成25年度事業報告及び決算について 2 役員の選任について	同意 同意
平成26年10月 7日	中央地区老人福祉総合 エリア多目的ホール	1 平成26年度補正予算(案)について	同意
平成27年 3月12日	中央地区老人福祉総合 エリア多目的ホール	1 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団旅費規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 7 平成26年度補正予算(案)について 8 平成27年度事業計画(案)及び当初予算(案)について	了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承

### (2) 理事会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成26年 5月23日	中央地区老人福祉総合 エリア研修室	1 平成25年度事業報告及び決算の認定について 2 評議員の選任について 3 役員の選任について	認定 同意 同意
平成26年 6月 1日	中央地区老人福祉総合 エリア研修室	1 理事長の互選について	承認
平成26年10月10日	中央地区老人福祉総合 エリア研修室	1 平成26年度補正予算(案)について 2 評議員の選任について	同意 同意
平成27年 3月19日	中央地区老人福祉総合 エリア研修室	1 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団旅費規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 7 平成26年度補正予算(案)について 8 平成27年度事業計画(案)及び当初予算(案)について 9 施設長の任命について	了承 了承 了承 了承 了承 了承 同意 同意 承認

### (3) 監事の監査

開催年月日	会場等	付議事項
平成26年 5月 1日 5月 2日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	平成25年度事業の執行状況及び収支決算状況について
平成26年11月12日	秋田県社会福祉会館	新社会福祉法人会計の基礎について

(4) 施設長会議

開催年月日	会場等	付議事項
平成26年 5月13日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成26年度第1回評議員会・第1回理事会議案関係について</li> <li>2 監事監査の指導助言事項等について</li> <li>3 平成26年度予算執行関係について</li> <li>4 平成28年度以降の事業運営に係る経営改善計画について</li> <li>5 平成26年度各施設重点事項について</li> <li>6 平成26年度障害者雇用の推進について</li> <li>7 社会貢献活動について</li> <li>8 非常時・緊急時等メール一斉送信システムの活用について</li> <li>9 平成26年度(25年度分)経営改善計画評価報告会日程について</li> <li>10 岩手県被災地支援ボランティア活動について</li> <li>11 その他</li> </ol>
平成26年 9月29日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成26年度補正予算(案)について</li> <li>2 評議員の選任について</li> <li>3 由利本荘市地域生活支援総合センター(仮称)及び知的障害者グループホームの整備計画に係る土地の取得について</li> <li>4 平成26年度秋田県出資法人職員共同採用試験について</li> <li>5 強度行動障害を示す利用者支援に係るワーキンググループの設置について</li> <li>6 非常時緊急時メール一斉送信システム送受信訓練の実施状況について</li> <li>7 東日本大震災被災地支援ボランティア活動報告等について</li> <li>8 その他</li> </ol>
平成26年12月12日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 秋田県人事委員会の勧告(平成26年10月17日付け「職員の給与等に関する報告及び勧告」)に係る事業団の対応について</li> <li>2 平成27年度当初予算及び平成26年度補正予算の編成スケジュールについて</li> <li>3 平成27年度秋田県社会福祉事業団職員採用について</li> <li>4 平成26年度職員提案及び25年度職員提案進捗状況について</li> <li>5 県有貸与施設の譲与、貸与に係る経緯等について</li> <li>6 平成26年度内部経理監査結果等について</li> <li>7 由利本荘市地域生活支援総合センター(仮称)及び知的障害者グループホームに係るワーキンググループについて</li> <li>8 東日本大震災被災地支援ボランティア活動報告等について</li> <li>9 平成27年度人事異動ヒアリング日程について</li> <li>10 障害者雇用の推進について</li> <li>11 地域公益活動について</li> <li>12 その他</li> </ol>
平成27年 3月 5日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 秋田県社会福祉事業団第3回評議会、第4回理事会議案等について</li> <li>2 平成26年度補正予算・平成27年度当初予算収支差額について</li> <li>3 地域における公益的な活動の取り組みについて</li> <li>4 知的障害者グループホームの整備計画について</li> <li>5 県有貸与施設の譲与、貸与に係る経緯等について</li> <li>6 平成27年度職員研修計画について</li> <li>7 強度行動障害支援について</li> <li>8 虐待防止体制の強化について</li> <li>9 退職者辞令交付式について</li> <li>10 定期人事異動(課長職以上)・新規採用職員辞令交付式等について</li> <li>11 その他</li> </ol>

## 6. 研修

### (1) 主な施設内研修

- ・ 新任・転任職員研修
- ・ 接遇研修
- ・ 救急救命講習（AED講習を含む）
- ・ OJT研修
- ・ 感染症予防研修
- ・ ハイクオリティサービス推進システム研修
- ・ 各種支援技術（介護技術）取得研修
- ・ 施設見学、施設体験研修
- ・ 3エリア合同視察研修
- ・ 3エリア合同研修（パソコンデザイン、ビジネスマナー）
- ・ 虐待防止研修
- ・ 自動車スキッド講習
- ・ 除雪機作動訓練
- ・ 福祉サービスの基礎知識
- ・ 自閉症の基礎的理解について（DVD含む）
- ・ ターミナルケアについて学ぶ
- ・ 障害者雇用について
- ・ サービス管理責任者研修
- ・ 不審者対応研修
- ・ 防災関連設備研修
- ・ 認知症研修
- ・ 権利擁護研修・成年後見制度研修

### (2) 主な事業団内研修

- ・ 階層別研修Ⅰ（新任職員研修）
- ・ 階層別研修Ⅰ（新任職員研修）（過去3年間採用職員）
- ・ 階層別研修Ⅰ～Ⅵ（事務職研修）
- ・ 階層別研修Ⅱ～Ⅵ（人事考課研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅴ（地域生活支援研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅴ（介護技術習得研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅳ（精神障害の理解とコミュニケーション研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅵ（強度行動障害に係る研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅵ（強度行動障害支援者養成研修（国研修）に係る伝達研修）
- ・ 平成27年4月1日付け新規採用内定者に対する事前研修

### (3) 主な事業団外研修

- ・ 北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修
- ・ 全国知的障害者福祉関係職員研究大会
- ・ 秋田県障害関係施設長・職員合同研修会
- ・ 秋田県老人福祉施設職員研修会
- ・ 全国グループホーム等研修会
- ・ 看護職員研修
- ・ 給食施設関係者研修
- ・ 福祉保健施設・事業者等職員研修（事務・新任・中堅・指導者）
- ・ 福祉保健施設長研修
- ・ 研修担当職員研修
- ・ 障害者虐待防止・権利擁護研修
- ・ 社会福祉法人経営者研修会
- ・ 障害福祉サービス経営セミナー
- ・ ホスピタリティ研修
- ・ 苦情解決研修会
- ・ 秋田県自治研修所能力開発研修
- ・ メンタルヘルス講習
- ・ 強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）
- ・ 相談支援事業関係者セミナー
- ・ 自閉症セミナー

## 7. 苦情解決処理状況

### (1) 過去5年間における苦情件数の推移

年 度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
件 数	70	49	39	46	47

### (2) 平成26年度施設別件数

	(職員の接遇等) サービスの内容	(サービスの質・量) サービスの内容	説明・情報提供	施設・設備	制度・政策	金 銭	被 害・損 害	権 利 侵 害	そ の 他	計	(継続中の件数) 苦情解決の結果
北部老人福祉総合エリア	2									2	0
中央地区老人福祉総合エリア	3	8	1							12	0
南部老人福祉総合エリア	1								1	2	0
高清水園	2									2	0
心身障害者コロニー							3	1	1	5	0
みずばやし							1	1	1	3	0
阿桜園	3								1	4	0
やまばと園	5		1	1						7	0
身体障害者更生訓練センター	1	2							7	10	0
点字図書館										0	0
計	17	10	2	1	0	0	4	2	11	47	0

### (3) 平成26年度苦情の主な内容

	内容の分類	件数	割合	内 容	例
利用施設	サービス内容 (職員の接遇等)	5	36%	職員の接遇に関する事	利用客に対する挨拶の対応が不適切だった。 →職員間で接客態度について注意喚起、周知徹底を図る。
	サービス内容 (サービスの質・量)	8	57%	清掃、客室サービスに関する事	浴槽等の清掃管理が不十分だった。 →清掃管理の徹底を図りサービス向上に努める。
障害施設・老人施設	サービス内容 (職員の接遇等)	12	36%	職員の接遇に関する事	利用者家族に対する電話での対応が不適切だった。 →職員間で接遇マナーの向上について、周知徹底を図る。
	サービス内容 (サービスの質・量)	2	6%	利用者のプライバシーに関する事	利用者居室への入室の際、配慮に欠けていた。 → 職員間で周知徹底を図り、意識向上に努める。
	被害・損害	4	12%	利用者間のトラブルに関する事	利用者間で中傷する内容のメールの送信がある。 → 利用者に経緯を説明し改善を図る。
	その他	11	33%	製品販売に関する事	販売製品について不良品が紛れてしまった。 → 製品の品質管理の徹底を図る。

※上段は申出、下段は解決の内容

## 8. 施設別事業実施の概要と評価

### (1) 秋田県北部老人福祉総合エリア

#### ○施設運営の概要

##### 1) 営業活動の強化

平成26年度は、団体の宿泊利用拡大のため、スポーツ団体パックの企画をもとに、県北地区で開催された高校・中学校の各種大会での営業活動を実施した。また、県北地区の道の駅や公共施設を廻り、パンフレットの補充や新規にポスターの掲示を行うなど広報活動を行った。このほか、秋田観光連盟に継続加入し、観光冊子への掲載や誘客事業等に参加したほか、地元の新聞及び広報紙を積極的に活用し、エリアの周知に努めた。

##### 2) 事業活動の拡充

開設から15周年にあたることから、8月に記念祭を開催し、よさこい演舞、太鼓演奏、戦隊ショー等の催し物で利用された方に楽しんでいただいたほか、3日間の休憩（入浴）の半額割引を実施した。

3月には、恒例となった「お客様感謝祭」を開催した。今回は特に子供向けのゲームをメインとして、芸能ステージ、フリーマーケット、即売等の催し物で、多くの来場者で賑わった。また、当日は、地元の直売所と共同企画した市特産の「大館さくら豚」を使った豚丼とホットドックを販売し好評を得ることができた。

県社会福祉協議会と共催により、進路ガイダンス・高校生福祉セミナーを継続開催し、8校27名の参加が得られ、地域福祉活動の推進に努めることができた。

また、前年度に引き続き、北鹿地域の小学校等への出張スポーツ体験教室を実施し、316名の参加者があった。

生きがづくり・創作教室として、木工・陶芸・園芸・茶道の教室を継続開催し、延べ1,404人（286回）の参加となった。夏休み期間には、工作（芝ぼうや作り）教室と染め物教室の親子教室を開催した。

健康づくり事業では、ユニカール、グラウンドゴルフ、バドミントン、ラージボール卓球の交流会及び大会を開催し、延べ649人（7回）の参加があった。ゲートボール及びペタンクについては、競技人口の減少により開催できなかった。

新規事業として、地域住民及び福祉施設職員を対象とした健康づくり教室を開催し、延べ350人（32回開催）の参加者を得ることができた。

### 3) 施設整備

2月に県の整備事業として、館内照明の一部についてLED化への改修工事が施行された。

#### ○世代間交流及び利用の促進

平成26年度の北部エリアの総利用者数は、79,090人で前年度比2,168人の増となった。

内訳として、有料部門では、全体で890人の増の40,911人の利用。休憩(入浴)は、915人増の28,401人の利用となった。宿泊は、123人増の2,708人、会議室等の利用については、689人の減となっている。

無料部門は、1,278人増の38,179人となっているが、映写会が950人の減となっており減少傾向にある。

世代間交流事業として、農園での保育園児等と老人クラブの方々によるサツマイモの苗植えと収穫作業を通して交流を深めた。(延べ605人)

「県の記念日」「敬老の日」には、休憩(入浴)・テニスコートの無料開放を行い、エリアの機能及び事業内容の周知を図るとともに更なる利用の促進に努めた。

市社会福祉協議会主催の大館ボランティアフェスティバル(約3,000人)が北部エリアを主会場に継続開催され、地域の交流施設としての利用が図られた。

このほか、地元の駅伝大会がエリア周回道路で開催されたほか、県北地区高校女子ソフトテニス大会の利用があった。

11月から3月までの冬期間、休憩(入浴)の夕方割引時間を1時間繰り上げ15時からとし、サービスの改善に取り組んだ。利用者から好評をいただき利用率も向上したことから、次年度は年間を通して実施することとした。

#### ○衛生・安全対策

防災関係では、宿直員・遅番職員による夜間想定訓練を行ったほか、消防署の立ち合いや煙体験を取り入れた防災訓練を実施し、防災意識の高揚と防災体制の確立に努めた。

ドクターヘリの臨時離着陸場としての使用が2件あり、使用時の安全確保等の協力を行った。また、マニュアルを整備しスムーズな受入態勢の確立に努めた。

#### ○苦情解決処理状況

26年度の苦情処理状況として、サービス内容(職員の接遇)に関することが2件となっており、早急に対応を図った。また、年2回(10月、3月)第三者委員への苦情及び要望等への処理と回答について報告を行い、対応についての指導・助言等を得ながら円滑な苦情解決とサービス提供に資することとした。

平成26年度北部老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位；人

区 分		年 間 合 計 (人)		比較増減
		平成26年度	平成25年度	
有 料	休 憩	28,401	27,486	915
	宿 泊	2,708	2,585	123
	会 議 室 等	3,836	4,525	△ 689
	屋内運動広場	2,774	2,770	4
	テニスコート	1,433	1,045	388
	自主企画事業	1,759	1,610	149
	小 計	40,911	40,021	890
無 料	屋内運動広場	26,583	26,476	107
	屋外運動施設等	2,297	47	2,250
	自主企画事業	9,213	10,242	△ 1,029
	視 察 等	86	136	△ 50
	小 計	38,179	36,901	1,278
合 計		79,090	76,922	2,168

2. 各種自主企画事業利用状況

※単位；人 ( )内は開催回数

区 分		平成26年度	平成25年度	比較増減
生 活 活 動	陶 芸	624 ( 130 )	876 ( 125 )	△ 252 ( 5 )
	木 工	548 ( 126 )	489 ( 143 )	59 ( △ 17 )
	園 芸	90 ( 18 )	103 ( 18 )	△ 13 ( 0 )
	茶 道	142 ( 12 )	136 ( 12 )	6 ( 0 )
	その他の教室	355 ( 33 )	6 ( 1 )	349 ( 32 )
	小 計	1,759 ( 319 )	1,610 ( 299 )	149 ( 20 )
区 分		平成26年度	平成25年度	比較増減
健康 づくり	スポーツ大会等	965 ( 13 )	1,093 ( 18 )	△ 128 ( △ 5 )
	小 計	965 ( 13 )	1,093 ( 18 )	△ 128 ( △ 5 )
交流 活動	交流イベント等	3,847 ( 23 )	3,716 ( 22 )	131 ( 1 )
	小 計	3,847 ( 23 )	3,716 ( 22 )	131 ( 1 )
そ の 他	映 写 会	2,478 ( 159 )	3,428 ( 164 )	△ 950 ( △ 5 )
	無 料 開 放	359 ( 2 )	297 ( 2 )	62 ( 0 )
	ポイントカード等	1,564 ( 1,564 )	1,708 ( 1,708 )	△ 144 ( △ 144 )
	小 計	4,401 ( 1,725 )	5,433 ( 1,874 )	△ 1,032 ( △ 149 )
合 計		9,213 ( 1,761 )	10,242 ( 1,914 )	△ 1,029 ( △ 153 )

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位；人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
コミュニティセンター利用者数	84,914	79,425	82,979	76,922	79,090

## (2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア

### ○施設運営の概要

#### 1) 営業活動の強化

3エリア協同で分担し、県内及び隣県3県への営業活動を行った。中央エリアでは、上期は岩手県の市・県の体育協会を訪問し、合宿等の団体宿泊の誘致に向けた営業活動を行った。また、昨年訪問した道の駅から利用者が多い駅6箇所を再訪問し、パンフレットの常置と新規作成したポスターの掲示を依頼した。下期は秋田県内の各体育協会10箇所及び県内道の駅8箇所、その他にパンフレットの長期常置を依頼したほか、山形県の体育協会3箇所を訪問した。

このほか秋田駅東西自由通路内照式広告を更新するとともに、ウェブサイト秋田県観光総合ガイドと秋田県スポーツ情報ステーションへの施設情報掲載を継続した。

#### 2) 事業活動の拡充

前年度新規事業として好評を得、健康増進事業及び地域住民の交流の場として定着・拡充を目指している「笑い与健康トークショー」には40名の参加、「ミニテニス大会」には123名の参加があった。

世代間交流事業として3エリア合同企画イベント「エリア感謝祭」を開催。体験型イベント(ゲーム・アトラクション)や各種催し物の開催により1,707名の来館者があり、好評のうちに終わることができた。

プールを活用した秋田市から受託の介護予防事業「はつらつくらぶ」については837名の利用があり、利用者から好評を得て継続している。

生きがい・健康づくり活動支援として、陶芸、茶道、太極拳、楽しく体操、ボールエクササイズ、フラダンス、フラワーアレンジメント教室を継続開催し、新たにセルフジェルネイル教室を開催した。また、夏休み親子体験として「陶芸・七宝焼教室」を開催し107名が参加、冬休み親子陶芸・七宝焼き教室には39名が参加した。年間の教室開催数は332回、延べ参加者数は6,014名であった。

#### 3) 施設整備

平成25年度に芝生の養生中であった緑地運動広場が、平成26年4月にオープンした。グラウンドゴルフ場として整備してほしいという要望を受け、使いやすいうように緑地運動広場に印をつけ、用具についても一式貸し出し出来るよう準備した。また、広く一般にも利用しやすいよう料金の割引を検討して、9月から実施したところ、1,359名の団体利用があった。

## ○世代間交流及び利用の促進

総利用者数は、161,517人で前年度比5,002人の増となった。

有料部門では、前年度比8,226人増の144,135人、無料部門が、3,224人減の17,382人となった。

有料部門の内訳として、休憩（入浴）が、878人増の45,463人、宿泊は80人減の3,375人、そのほかプール利用が、2,067人の減、会議室等が1,874人の増となっている。屋内運動広場については4,115人増の18,275人と過去最高になっており、今後も需要の増が見込まれる。

ふれあい農園を利用した世代間交流事業では、保育園児とエリア入居者、地域住民の方々によるサツマイモの苗植え・収穫作業を実施し、延べ202人の参加があり交流を深めた。

「県の記念日」「敬老の日」に休憩（入浴）とプールの無料開放を行い施設のPRとともに利用の促進に努め、延べ703人の利用があった。

サービスの改善として、スポーツ団体をはじめとする各種団体への割安な宿泊プランの要綱を定め、9月より受付を開始した。また、利用者の便宜を図るため、需要が伸びている屋内運動広場については休業日をなくすことを、屋内温水プールについては団体の利用時間枠を広げることを検討し、使用規程を改正して次年度から実施していくことになった。

## ○衛生・安全対策

防災関係では、事業計画に基づき年2回の総合防災訓練を実施したほか、部分訓練として一人勤務時や少人数時の火災報知器への対応等についての個別訓練を行い、防災体制の確立と意識の高揚に努めた。また、救急対応については、普通救命講習を定期的に受講しAED操作等の技能の保持に努めた。

プール・浴場の衛生管理としてレジオネラ属菌等の検査を実施するとともに、関係設備の清掃及び洗浄消毒等を行い衛生管理の徹底に努めた。

## ○苦情解決処理状況

平成26年度の苦情受付件数は12件で、内容は職員の接遇に関するものが3件、サービスの内容に関するもの8件、説明・情報提供に関するもの1件となっている。寄せられた苦情・要望等については、協議のうえ申出人へは謝罪や回答を伝え、職員へは周知を図った。また、第三者委員への報告を行い、対応についての助言を得た。

平成26年度中央地区老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位：人

区分	年間合計(人)		比較増減	
	平成26年度	平成25年度		
有料	休憩	45,463	44,585	878
	宿泊	3,375	3,455	△ 80
	会議室等	31,253	29,379	1,874
	屋内運動広場	18,275	14,160	4,115
	緑地運動広場	1,359	0	1,359
	陶芸室等	2,385	2,022	363
	プール	35,199	37,266	△ 2,067
	休憩&プールセット	812	821	△ 9
	各種自主事業等	6,014	4,221	1,793
	小計	144,135	135,909	8,226
無料	屋内運動広場	15,468	17,268	△ 1,800
	屋外運動施設等	202	211	△ 9
	各種自主事業等	1,635	2,802	△ 1,167
	視察等	77	325	△ 248
	小計	17,382	20,606	△ 3,224
合計	161,517	156,515	5,002	

※プール利用人数には水泳教室参加者4,982人含む

2. 各種自主事業等利用状況

※単位：人 ( )内は開催回数

区分	平成26年度		平成25年度		比較増減	
	人数	開催回数	人数	開催回数	人数	開催回数
有料	生きがい活動	木工	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )
		陶芸	833 ( 98 )	697 ( 96 )	136 ( 2 )	
		銀粘土	55 ( 1 )	0 ( 0 )	55 ( 1 )	
		フラワー	152 ( 20 )	65 ( 12 )	87 ( 8 )	
		茶道	224 ( 24 )	185 ( 24 )	39 ( 0 )	
		編み物	0 ( 0 )	55 ( 12 )	△ 55 ( △ 12 )	
		俳句	0 ( 0 )	64 ( 6 )	△ 64 ( △ 6 )	
		その他の教室	3 ( 2 )	246 ( 18 )	△ 243 ( △ 16 )	
		小計	1,267 ( 145 )	1,312 ( 168 )	△ 45 ( △ 23 )	
	健康づくり活動	太極拳	776 ( 36 )	1,062 ( 72 )	△ 286 ( △ 36 )	
ボールEX		447 ( 32 )	394 ( 32 )	53 ( 0 )		
はつらつクラブ事業		837 ( 36 )	833 ( 36 )	4 ( 0 )		
体育教室		472 ( 35 )	329 ( 30 )	143 ( 5 )		
水泳教室(外部施設)		0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )		
フラダンス		150 ( 24 )	22 ( 11 )	128 ( 13 )		
健康づくり事業		358 ( 23 )	269 ( 2 )	89 ( 21 )		
小計		3,040 ( 186 )	2,909 ( 183 )	131 ( 3 )		
その他	イベント等	1,707 ( 1 )		1,707	1,707	
小計	1,707 ( 1 )	0 ( 0 )	1,707	1,707		
合計	6,014 ( 332 )	4,221 ( 351 )	1,793 ( △ 19 )			
有料	健康	水泳教室	4,982 ( 680 )	5,024 ( 619 )	△ 42 ( 61 )	
合計	4,982 ( 680 )	5,024 ( 619 )	△ 42 ( 61 )			
その他	無料	映写会	242 ( 62 )	705 ( 71 )	△ 463 ( △ 9 )	
		ポイントカード	234 ( 234 )	240 ( 240 )	△ 6 ( △ 6 )	
		無料開放等	814 ( 2 )	1,379 ( 2 )	△ 565 ( 0 )	
		ボランティアルーム	345 ( 25 )	478 ( 33 )	△ 133 ( △ 8 )	
	合計	1,635 ( 323 )	2,802 ( 346 )	△ 1,167 ( △ 23 )		

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位：人

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
コミュニティセンター利用者数	155,016	139,779	147,801	137,952	156,515	161,517

### (3) 秋田県南部老人福祉総合エリア

#### ○ 施設運営の概要

##### 1) 営業活動の強化

営業活動については、営業・広報担当の連携強化に努めエリアの機能や利用施設について積極的な広報活動に努めた。その結果、老人クラブ、生き生きサロン等で43件、894人の利用があり、わずかであったが増加が見られた。

また、毎月のお知らせの工夫、広報誌・地方紙等へ掲載し利用促進に努めるとともに定期バス運行のPR、戸別訪問等による利用促進に努めた。

(登録者37名 内 新規4名)

大仙市・横手市方面を対象にポスティングによるチラシ配布(4日間で1,820枚)を行い広報活動に努めた。チラシの内容としては、水泳教室の受講生募集、エリア利用プランの案内、秋の祭典イベント案内等であった。

##### 2) 事業活動の拡充

- ① 夏祭りは毎年恒例である白寿園との協賛にて実施し、地域住民及びエリア利用者約2,800人の参加があり打ち上げ花火等により盛大に行われた。
- ② 生き生き学園・自主活動の開催回数は816回で、参加者総数は4,676人だった。新たな教室はなかったが囲碁教室に将棋を含んで一部内容の変更を行い実施した。ゲートボールと華道教室講師の急逝による教室の中止による利用者減も影響した。
- ③ 地域で活躍している個人や団体の作品の展示の場としてミニミニギャラリーを毎月開催している。今年度は5月の連休に昭和レトロ展と題し「油谷これくしょん」とともに「ふるさとの原風景」絵画展を開催するなどして多くの鑑賞者が訪れ好評であった。また、昨年鑑賞者の感動を呼び好評であった「佐々木ひでお 口筆画展」も開催し来場者の関心を引いていた。
- ④ 各種スポーツ大会等においてはエリア杯グラウンド・ゴルフ大会、ゲートボール大会、スマイルボウリング大会、秋の祭典スポーツイベントとして卓球大会を開催した。10回開催し、628人の参加があった。それぞれのスポーツ大会において冬季間の健康作りの場として愛好者が増加し、自主活動が盛んに行われている。
- ⑤ 地域福祉推進活動として、県指定の「介護職員初任者研修」(19人)、県社会福祉協議会との共催による高校生対象の「福祉セミナー&進路ガイダンス」(7高校 30人)、県リハビリセンターとの共催による「リハビリ健康教室」を実施した。同教室には施設入所者20人、地域住民27人の参加があった。その他、福祉車両貸出しを継続して実施している。(利用件数39件、利用延べ日数64日) 主な利用目的は施設入所者の外出、病院からの一時外出等に利用されるケースでありリピーターが多く見られ

た。

- ⑥ ボランティア活動については、横手市社会福祉協議会と連携を図り、活動日数8日、33人の活動があった。

### 3) 施設設備

- ① コミュニティセンター及び旧シルバーケアセンター棟防水層工事が地域振興局工事として施行された。  
期間（平成26年9月5日～平成27年2月13日）
- ② サブエネ電気室内直流電源装置更新工事が地域振興局工事として施行された。経年による交換部材の対応ならびに異常時対応が危ぶまれるとの指摘を受けたため更新となった。期間（平成26年12月1日～5日）

### 4) その他

- ① 電気料金の値上げに対し、施設全体で節電に取り組み、一定の効果を得られた。
- ② 「介護職員初任者研修」は昨年定員を下回る結果に終わったため早くから周知、広報（新聞折り込みチラシ・ダイレクトメール等）に努めたものの募集定員30名に対し、19名の受講申し込みとなり2年連続による定員割れとなった。
- ③ 3エリア協同による営業・広報戦略の一環として合同の視察研修の実施、合同イベント開催については業者と検討を重ね計画通り進めることができた。
- ④ 3エリア合同イベントとして利用者参加型ゲーム「消えたユニちゃんを捜せ」を雪まつりの目玉として行い、約1,200人にのぼる親子連れの来場者があり冬のイベントとしては最近にない盛況となった。
- ⑤ 冬季間を除き「のぼり旗」をエリア前の沿道に設置して宣伝効果を高め集客を図った。

### ○世代間交流及び利用の促進

平成26年度の総利用者数は92,572人で前年度比5,450人の減となる。部門別では、有料部門578人の増となったものの、無料部門は、ふれあいセンターの落ち込みが影響し、6,028人の減となった。

世代間交流事業としては、夏・冬の親子チャレンジ教室の実施（31回515人）。今年度新規教室グラスアート、パンケーキ、プラバン工作教室等は好評で、希望者が殺到し急遽定員を増やすなどして対応した。今後も継続したい事業であり、参加率を上げるため内容の充実と、より効果的な広報活動に努める。

### ○居宅支援センター

- 1) 指定居宅介護支援事業所については、入居者利用のほか、地域住民登録者を含め67人であり、市町村（横手市、湯沢市、羽後町、横浜市）依頼に

より37件の介護認定の訪問調査を実施した。

(要介護者総数588人 要支援者総数218人 計806人利用)

- 2) 指定訪問介護事業所については、秋田県介護サービス情報公表センターで実施している介護サービス情報公表の報告を行い、当事業所の介護サービスをインターネット上で周知しサービスの向上と効率的運営に努めた。また、平成27年1月には事業所のデータ更新を行った。

延べ利用者数が月平均673人(訪問介護サービス利用8,075件)

介護関連事業においては、ヘルパー13名体制に対して1名の欠員が続いているなか、早朝、夜間のサービスの提供を含め、利用者のニーズに対応できるよう努力した。

- 3) 平成21年度から横手市より受託している配食サービスは、利用者の皆さんから大変好評を得ており、一人暮らしの高齢者の安否確認という目的もあり、重要な事業の一つとなっている。

## ○入居施設

### 1) 養護老人ホーム

利用者の平均年齢が80.9歳と高齢化が進み、全体的に身体機能の低下が進んできている。また、認知症の方が年々増えてきており、一人ひとりに合った個別支援計画の作成と、個々の状況に応じた居住環境の整備、訪問介護、訪問リハビリ等の利用について都度、本人や家族に情報提供し、安全な日常生活を送ることができるよう支援に努めた。

また、夜間および日中においても生活に不安を抱える利用者が多くなっており、訪室等の回数を増やすなどして生活状況の把握と事故の未然防止、体調等の変化に速やかに対応することにより、継続的に安全な生活の確保に努めた。

日中の活動として、誰でも気軽に参加できるクラブ内容の充実に努めると共に、他利用者と交流の機会が少ない利用者には、個別に参加を呼び掛けた。「健康体操(49回実施延べ人数851人)」「音楽クラブ(47回実施延べ人数1,263人)」「ごきげんクラブ(22回実施延べ人数341人)」を開催した。

訪問介護事業所と連携をとり各種行事への参加、ショッピング等外出支援を行うことができ、質の高いサービスに努めることができた。

保健・医療面では利用者の高齢化に伴い、毎日のバイタルチェックを行うと共に疾病が重症化しないよう嘱託医と連携し、定期診察、定期健診、医療相談などを行い、利用者の不安解消に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、利用者会議等多くの機会を活用し、感染予防に努めた。

防災については総合防災訓練で食糧の備蓄、暖房器具・防災グッズ等の運び出しを行うなど、備蓄を確認し災害時に備えた。施設では日中、夜間勤務体制での避難訓練を行い、有事の際の適切な対応等職員の危機意識を高めるための訓練を実施した。

平成27年3月31日現在 利用者 49名  
 要介護認定者 24名  
 要支援認定者 13名  
 ヘルパー利用 31名  
 平成26年度 入所者 9名  
 退所者 8名  
 (他施設入所1名 長期入院 2名 死亡 5名)

## 2) 軽費老人ホーム

利用者の平均年齢が82.8歳であり、高齢化と共に心身の機能低下が著しく、日常生活に不安を抱える利用者が増えている現状にあり、介護度の重度化により対応が困難となった方、長期入院となった方、自宅復帰した方と退所者が多く、新規に入居される方も少なく13人の欠員となっている。利用促進として包括支援センター及び社会福祉協議会等の関係機関や、関東地区大森ふるさと会会員等へ施設の情報を提供し、広報活動を実施し利用者の確保に努めた。また、「かまくら横手」主催の介護説明会に参加し、施設の紹介をして認知度の向上に努めた。

利用者個々のニーズに基づいた個別支援計画を作成すると共に、随時生活相談に応じ、利用者の状況に対応した介護保険サービスを活用した居住環境の整備や、訪問介護サービス等の利用の紹介により、安全な日常生活を継続的に送ることができるよう支援に努めた。

また、体調不良等により一時的に日常生活に困難が生じた場合、利用者が希望するサービス（特別提供サービス）を有償で提供することにより、施設生活が継続できるよう努めた。

保健面では定期健康診断や健康相談を実施し、協力医療機関との連携により、高齢による疾病の重症化の未然防止と体調把握による不安の解消に努めた。

身体機能の維持については、健康体操や専門講師による「元気ハツラツ教室」を開催し、介護予防についての啓蒙活動に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため談話会等、多くの機会を活用し注意と喚起を呼び掛けた結果、インフルエンザ等感染症の罹患者はなかった。

平成27年3月31日現在、利用者数37名  
 (個室5室、2人部屋4室が空室)

要介護認定者 11名  
 要支援認定者 14名  
 介護保険サービス利用者 21名  
 平成26年度 入所者数 6名  
 退去者数 12名 (他施設ほか 9名、自宅復帰 3名)

### 3) 老人専用マンション

利用者の平均年齢が85.7歳と高年齢化と共に、支援を必要とする利用者が増加傾向にあるため、必要な時に介護サービスを速やかに利用できるよう適時生活相談に応じるとともに、介護保険サービスの情報提供に努めた。また、市町村及び居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等関係機関と連携し、介護サービスの導入と福祉用具の活用等により、生活の質の向上に努めた。介護保険サービス利用者6人となっている。健康面については、随時健康相談等を実施し病気に対する不安の解消に努めるとともに、定期健康診断等により病気の早期発見と、協力医療機関との連携により病気の重症化の回避に努めた。

また、感染症予防として利用者の健康と清潔な生活環境の維持に努めると共に、インフルエンザの予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、談話会等多くの機会を活用し注意と喚起を呼びかけた結果、インフルエンザ等感染症の罹患者はなかった。

また、心身機能の低下予防として外出援助の機会を設けるとともに、健康体操の実施と地域や当エリアで開催している生きがい・健康づくり活動等への参加を促し、生きがい活動につなげた。

利用促進については、関東地区大森ふるさと会会員等へ施設の情報を提供し、広報活動に努めたが、新たな入居には至らなかった。

平成27年3月31日現在、利用者数 15名  
(個室2室、夫婦部屋3室が空室)

入所者数	0名
退去者数	1名(他施設1名)
要介護認定者	4名
要支援認定者	4名
介護保険サービス利用者	6名

#### ○衛生・安全対策

防災関係では、年2回の総合防災訓練(うち1回は炊き出し訓練を実施)を実施し、互助協力体制の必要性、重要性を職員・入居者共に体感しながら消防署の立ち会いのもと実施した。また、常設AEDを2台増やし施設での緊急時対応の強化に努めた。

災害時に備えた、事業団全体の緊急一斉メール送信の定期訓練の参加とともに異常気象による注意喚起等も行った。また、今冬は昨年のような職員による一斉雪下ろし等は要しなかったものの道路の除雪、避難路の確保には最善を努めた。

設備関係については、プールや浴室も含めて点検等を怠ることなく、利用者や入居者の安全に配慮した。

○苦情解決処理状況

コミュニティセンターにおいては顧客満足度調査等による意見・要望が22件あり、速やかな回答に努め館内に掲示し周知した。

居宅支援センターにおいては、毎月現任研修を行い職員間の連携の強化を図るとともに、サービスの向上に努めた。また、3月には苦情解決状況報告会を開催し、顧客満足度調査等の結果を報告し適切な助言を得ることができた。

平成26年度南部老人福祉総合エリア利用状況(前年度比較)

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位:人

区分	年間合計(人)		比較増減	
	平成26年度	平成25年度		
有料	休憩泊	12,290	12,442	△ 152
	会議室	798	905	△ 107
	屋内運動場	1,329	1,184	145
	プール	6,276	5,904	372
	セット券	7,044	6,231	813
	自主事業	134	639	△ 505
	計	5,368	5,356	12
無料	屋内運動場	33,239	32,661	578
	各種自主事業等	26,653	26,031	622
	その他事業	10,718	9,832	886
	視察等	21,862	29,045	△ 7,183
	計	100	453	△ 353
合計	59,333	65,361	△ 6,028	
合計	92,572	98,022	△ 5,450	

2. コミュニティセンター各種自主事業参加状況

※単位:人 ( )内は開催回数

区分	平成26年度		平成25年度		比較増減
	人数	回数	人数	回数	
趣味活動	有料	お茶会	100 ( 11 )	126 ( 11 )	△ 26 ( 0 )
		華道	80 ( 9 )	94 ( 11 )	△ 14 ( △ 2 )
		コーラス	107 ( 12 )	111 ( 12 )	△ 4 ( 0 )
		囲碁	412 ( 48 )	212 ( 42 )	200 ( 6 )
		小計	699 ( 80 )	543 ( 76 )	156 ( 4 )
健康づくり活動	有料	太極拳	114 ( 11 )	142 ( 12 )	△ 28 ( △ 1 )
		水中運動	120 ( 22 )	119 ( 22 )	1 ( 0 )
		ゲートボール	0 ( 0 )	83 ( 10 )	△ 83 ( △ 10 )
		レクス	328 ( 23 )	425 ( 24 )	△ 97 ( △ 1 )
		卓球	313 ( 23 )	272 ( 23 )	41 ( 0 )
		ヨガ	76 ( 22 )	110 ( 23 )	△ 34 ( △ 1 )
		ベビースイミング	13 ( 7 )	25 ( 12 )	△ 12 ( △ 5 )
水泳教室・各種教室	1,058 ( 355 )	1,068 ( 358 )	△ 10 ( △ 3 )		
小計	2,022 ( 463 )	2,244 ( 484 )	△ 222 ( △ 21 )		
講座・講演	有料	なつメロ	485 ( 11 )	535 ( 12 )	△ 50 ( △ 1 )
		移動講座	49 ( 2 )	61 ( 2 )	△ 12 ( 0 )
		テーブルコーディネート	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )
		小計	534 ( 13 )	596 ( 14 )	△ 62 ( △ 1 )
創作活動	有料	陶芸	779 ( 180 )	880 ( 170 )	△ 101 ( 10 )
		民芸	418 ( 45 )	382 ( 39 )	36 ( 6 )
		木工	45 ( 23 )	47 ( 21 )	△ 2 ( 2 )
		料理	179 ( 12 )	204 ( 12 )	△ 25 ( 0 )
		小計	1,421 ( 260 )	1,513 ( 242 )	△ 92 ( 18 )
教室	合計	4,676 ( 816 )	4,896 ( 816 )	△ 220 ( 0 )	
各種大会	合計	692 ( 9 )	208 ( 8 )	484 ( 1 )	
自主事業(有料)合計	5,368 ( 825 )	5,104 ( 824 )	264 ( 1 )		

自主事業(無料)

区分	平成26年度	平成25年度	比較増減	
映写会	842 ( 48 )	1,095 ( 48 )	△ 253 ( 0 )	
生きがい創作館	2,306	2,355	△ 49	
イベント・研修等	7,570	6,382	1,188	
合計	10,718	9,832	886	
その他事業	生きがい交流広場	618	627	△ 9
	ふれあいセンター	16,923	24,345	△ 7,422
	西部トレセン	4,321	4,073	248
合計	21,862	29,045	△ 7,183	

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位:人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
コミュニティセンター等の利用者数	118,376	118,296	99,585	98,022	92,572
コミュニティセンター利用者数(横手市除く)	86,551	84,789	69,127	69,604	71,328

その他

区分	平成26年度	平成25年度	比較増減
チャレンジ教室	515	632	△ 117
ポイントカード	144	172	△ 28
無料開放	704 ( 2 )	460 ( 2 )	244 ( 0 )

利用実績状況調

平成27年3月31日現在

【養護老人ホーム】

市町村		区分		合計
		男	女	
県内市	横手市	15	33	48
	湯沢市		1	1
	小計	15	34	49
県内町村				
	小計	0	0	0
県外	小計			0
合計		15	34	49

【軽費老人ホーム】

市町村		区分		合計
		男	女	
県内市	北秋田市			0
	秋田市		2	2
	横手市	7	8	15
	湯沢市	1	3	4
	大仙市		2	2
	仙北市	1		1
	由利本荘市		1	1
	にかほ市			0
	小計	9	16	25
県内町村	美郷町	1	1	2
	羽後町	1	3	4
	小計	2	4	6
県外	小計	3	3	6
合計		14	23	37

【老人専用マンション】

市町村		区分		合計
		男	女	
県内市	秋田市		1	1
	横手市	1	6	7
	湯沢市	1	1	2
	大仙市		1	1
	由利本荘市		1	1
	小計	2	10	12
県内町村	美郷町		1	1
	羽後町	1	1	2
	小計	1	2	3
県外	小計			0
合計		3	12	15

## (4) 秋田県高清水園

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

入所利用については、児施設は入退所共に無く、者施設は入所が無く退所1名(家庭復帰(女性))であった。

生活介護は昨年度より1名増の69名、自立訓練(生活訓練)は昨年度より2名減の2名、日中受入は13名の利用であった。

なお、待機者登録者数は、今年度、成人男子27名、成人女子8名、児童男子3名、児童女子1名となっている。

#### 2) 地域生活

グループホーム6棟(男性2棟、女性4棟)で、入居者31名(男性11名、女性20名)の支援を行った。

うち1棟の大家から5月に申し出があり転居することになったが、10月には新たな賃貸借物件を確保し、入居者や周辺住民とも問題もなく、スムーズに新たな場所で生活を続けることが出来た。

なお、新たな住宅の居室数等により、定員の変更や入居者の転居を行った。

#### 3) 相談支援事業の進捗

一般・特定・障害時の相談支援事業の業務を行った。

平成26年度末でサービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成の経過措置期限が終了となることから、特別支援学校や他の福祉施設等の関係機関からの依頼が増え、市町村や関係機関等との連携を密にし、2名の相談支援専門員によるサービス等利用計画案168件、新規89件、継続79件、モニタリング229件と、計画等の作成率が昨年度の約2倍であった。

#### 4) 経営改善計画の推進

生活介護の支援の充実を図り、さらに職員数を6名増やし1.7:1となる職員配置加算の体制を整備した。短期入所及び日中一時事業について、改修工事の期間も出来るだけ要望にかなうよう受け入れを心がけた。グループホームにおいては、入居者1名増により定員を充足したほか、新たに世話人の配置加算と夜勤体制加算を受けることができるよう整備した。

また、自立訓練(生活訓練)事業が定員8名に対し利用者2名であったが、平成27年度からは利用者が無くなる見込みであったことから、施設内で「事業の在り方ワーキンググループ」での検討を行い、今後の需要見込みと職員配置の効率化等の観点から、平成26年度で事業廃止をすることとした。

その他、施設内で「グループホーム整備計画」、「児童施設のあり方」に係るワ

ーキンググループを設置し検討を行った。

## ○施設支援

平成26年度末の利用児者については、児施設は、福祉型障害児入所施設5名（うち措置1名）、経過的生活介護・経過的施設入所支援30名であった。

県による空調設備等の大規模改修工事が予定されていたことから、利用者の安全と安心な生活の確保に万全を期して支援を心がけた。保護者の協力を得ながら無事に過ごすことが出来た。

福祉型障害児入所施設では、栗田養護学校へ4名が通学した。学級担任と年2回（春、秋）及び必要に応じて適時面談を実施したり、年3回の学校・施設連絡会、スクールバス運行委員会等を通じて学校との連携を図った。また、いわゆる処遇困難なケースについて、児童相談所等の関係機関を交えて2カ月に1度の頻度でケース会議を実施した。

経過的生活介護・経過的施設入所支援では、者施設の畑作業・環境整備等のグループ活動に参加したほか、リサイクル活動（ペットボトルや空き缶の洗浄・ラベルはがし・缶潰し等）を実施し、日中活動の充実を図った。

障害者支援施設は、生活介護69名、生活訓練2名、施設入所支援56名（男36名、女20名）であった。

生活介護は、定員52名に対し69名で、昨年度に引き続きほぼ上限となる利用状況であった。創作・生産活動として畑作業・環境整備・軽作業・創作（パズル、刺し子）・運動レク等の6グループ活動を編成した。が、8月下旬から12月下旬までの間、県による空調設備等の大規模改修工事が各棟・各ブロックごとに行われたことや、1月から2月にかけてインフルエンザ集団感染等のため、活動の充実を図ることはできなかったが、DVD視聴や寮内清掃等、できる範囲での活動を実施した。

生活訓練は、園内清掃等の作業や、就労継続支援B型事業所の利用へ向けた事業所実習、路線バス利用訓練などを実施した。

施設支援全体の取り組みとして、「構造化のアイデア」の見れば分かる視覚的な手掛かりの取り組み（日課や予定を絵カード・カレンダー等を用いて伝える、寮内や体育館などの空間をラインテープ・マット・サインボード・パーテーションなどでエリアを区切るなど）を取り入れ、利用児者がよりスケジュールに見通しを持つことが出来るよう配慮し、安心した生活を送ることができるよう努めた。

## ○居宅支援・その他の委託事業

短期入所・日中一時支援事業は、在宅支援の一環として利用を希望する障害児者の受け入れに引き続き努めたが、施設の大規模修繕期間の利用受け入れが困難であったことから、短期入所・日中一時支援とも利用人数は昨年度を下回った。

日中一時支援事業（放課後支援型）は、延べ1,373名の利用があり、引き続き専任職員が栗田養護学校内において支援を実施した。

共同生活援助事業は、男子2棟、女子4棟の合計6棟を運営し、日中活動として就労10名、就労継続支援B型事業所利用8名、生活介護事業利用10名、自立訓練(生活訓練)事業2名、その他1名の計31名の地域生活の支援を行った。

(平成27年3月31日現在)

事業名	男	女	合計
地域生活支援事業			
短期入所	57名	40名	97名
日中一時支援	90名	47名	137名
共同生活援助事業(GH)	11名	20名	31名
相談支援事業	224名	162名	386名
その他委託事業			
養護学校児童生徒放課後生活支援事業	1,232名	141名	1,373名

共同生活援助事業(入居者数)以外については、延べ人数  
相談支援事業は請求実績による延べ人数

#### ○健康管理

年間を通して各玄関や各棟入口にハセッパー水を置き、手洗い、手指消毒を励行した。10月に感染症予防対策活動推進担当者を設置し標準予防の強化に努めたほか、足ふきマットの設置、各寮の温湿度の記録と管理、ポスターの提示、研修会(感染症DVD、保健師や看護師による講話、ガウンテクニックの実体験など)を実施した。

4月にインフルエンザB型に利用者3名、職員1名が罹患したが短期間で完治した。正月明けにインフルエンザA型が集団発生となり、利用者(グループホーム利用者2名含む)16名、職員6名が罹患したが、重篤な症状の方はおらず短期間で回復する方がほとんどであった。

#### ○地域交流・社会参加

園行事(運動会・夏祭り)には、ボランティア27名を受け入れた。縫製ボランティアは2名が引き続き活動を継続している。また、ホームページでボランティアを募集したところ、1名希望者があった。

実習生の受入は、依頼6校、人数26名、延べ日数115日であった。

地域との交流は、7月に中央地区スポーツ交流会に参加し、ゲームを楽しむなど交流を図ったほか、9月には上北手地区大運動会の見学を行った。

#### ○苦情解決処理状況

苦情受付件数は2件であり、昨年と比較すると大幅に減少している。苦情の内

容は、2件とも職員の接遇に関する内容であり、市町村（秋田市）との連携不足により発生したものもあるが、相手方への配慮が欠けていたことによるものもあり、第三者委員からの助言も受けている。

また、毎月実施している「なんでも相談」も引き続き実施し、利用者から15件の相談があった。内容は質問や要望がほとんどであったが、利用者が自分の意見が言える場として、今後も継続して行くこととする。

## 市 町 村 別 利 用 状 況

平成27年3月31日

【施設入所:成人】定員60名

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県内市	秋田市	19	10	29
	北秋田市	0	0	0
	潟上市	3	1	4
	能代市	1	0	1
	横手市	1	0	1
	大館市	0	0	0
	由利本荘市	3	0	3
	男鹿市	3	1	4
	大仙市	2	2	4
	湯沢市	1	0	1
	仙北市	1	3	4
	小計	34	17	51
	県内町村	五城目町	0	1
八郎潟町		1	0	1
美郷町		1	1	2
八峰町		0	1	1
小計		2	3	5
県外		0	0	0
	小計	0	0	0
合計		36	20	56

【施設入所:児童】定員40名

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県内市	秋田市	17	7	24
	北秋田市	0	0	0
	潟上市	2	0	2
	能代市	0	1	1
	横手市	0	0	0
	大館市	0	0	0
	由利本荘市	2	1	3
	男鹿市	1	1	2
	大仙市	2	0	2
	湯沢市	0	0	0
	仙北市	1	0	1
	小計	25	10	35
	県内町村		0	0
		0	0	0
		0	0	0
		0	0	0
小計		0	0	0
県外		0	0	0
	小計	0	0	0
合計		25	10	35

【通所利用者】

区分	男	女	計
生活介護	4	8	12
生活訓練	0	2	2
合計	4	10	14

※児童施設の就学児数

学年	男	女	計
小学部	0	0	0
中学部	0	0	0
高等部	0	2	2
合計	0	2	2

通学校:栗田養護学校

【共同生活援助】定員31名

市町村	結 (GH)	みのり (GH)	さくら (GH)	あおぞら (GH)	彩 (GH)	こまち (GH)	計
	女	男	女	男	女	女	
秋田市	2		4	2	1	2	11
由利本荘市			1		2	1	4
男鹿市	1	2				1	4
仙北市				2			2
大仙市	1			1		1	3
横手市					1		1
潟上市		1					1
美郷町	1					1	2
五城目町				1			1
井川町		2					2
合計	5	5	5	6	4	6	31

## (5) 秋田県心身障害者コロニー

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

入所利用については、退所者23名（長期入院2名、死亡21名）に対し、新規入所者は5名であった。生活介護、自立（生活）訓練、就労継続支援B型事業の通所利用者は71名で、そのうち新規利用者が1名である。

#### 2) 地域生活支援

グループホーム15棟計72名の地域生活者に対する支援体制の充実に向け、西目市街地に設置しているサポートセンター職員10名による相談・支援の他、看護師1名を配置し地域生活者の健康管理の充実を図った。また、夜間支援については継続して宿直体制の対応とホームセキュリティの業務委託により防犯対策を講じたほか、職員の夜間巡回、携帯電話の24時間対応等で安心・安全確保に努めた。

#### 3) 就労支援

就労継続支援B型事業では、製パン、木工、窯業、園芸、果樹(畜産含む)の作業種目で事業を継続した。

製パンでは、施設利用者の減に伴い給食への提供分が減少したが、近隣の社会福祉協議会や市役所などへ販路拡大に努めている。

木工では昨年に引き続き各地域振興局、由利本荘市等からスノーポールを受注し昨年実績を上回る納品ができた。

果樹では主力のりんご（ふじ）の病虫害被害が少なく収穫量も十分確保できたことから贈答用としてすべての注文に応じることができた。

利用者一人あたりの平均工賃月額は、昨年の実績を上回る18,723円であった。

#### 4) 高齢化への対応

高齢化対策検討委員会では定期的に高齢化実態調査を実施し、身体状況や補装具の使用状況などを把握し支援の参考としている。3月31日現在の高齢化率（65歳以上）は、51.7%で前年度より2.3%上昇し平均年齢は62.37歳となっている。特に創生支援課と赤光支援課における高齢化が顕著でそれぞれの平均年齢が71.43歳と72.66歳と非常に高くなっている。

また、高齢化に伴う心身機能の低下による介護量や医療的ケアの増大が顕著であることを踏まえ、宿直体制から夜勤体制に切替え、職員の増員を図り介護支援の充実に努めた。

## 5) 経営改善計画の推進

営業日数の拡充が適応された他、生活介護サービスの人員配置体制加算とグループホームに係る医療連携体制加算の獲得により自立支援費収入が増となった。また、施設再編を実施し、支援度に応じた施設機能を提供することでゆとりある生活環境を整備した。他に毎月の委員会をとおして、電気及び燃料の使用状況と取り組みの進捗状況を全職員に周知し、経営改善の推進を図った。

### ○施設支援

平成26年度末の利用者は、生活介護389名、就労継続支援B型58名、自立(生活)訓練10名、施設入所支援382名である。

### ○居宅支援・その他の受託事業

由利本荘・にかほ圏域の在宅障害児(者)の知的障害者短期入所事業の述べ利用日数999日、日中一時支援事業の述べ利用日数278日であった。

障害児(者)地域療育支援事業では、由利本荘市・にかほ市の子育て支援担当課と連携を図りながら、療育相談・指導及び技術指導等を実施した。

相談支援事業については、事業所を旧本荘市街地に移転し利用者の利便性を図るとともに「障がい児者相談会」を開催し、基幹相談支援センターの周知を図ることができた。また、毎月相談支援事業連絡会を開催し、地域の相談支援の拠点として事業を展開した。

障害者就労・生活支援センター事業では、地域在住の障害者の就労支援、生活支援を実施し、相談件数は月平均200件余りに対応したほか、18名の就労と23件の実習受け入れを支援した。

また、由利本荘市基幹相談支援センターが実施する相談会に参加したり、勉強会や余暇活動支援等を開催した。

(平成27年3月31日現在)

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業(者)	410名	564名	974名
	短期入所事業(児)	25名	0名	25名
	日中一時支援事業	226名	0名	226名
	共同生活援助事業(GH)	44名	26名	70名

その他の委託事業		件数	登録者数
	障害児(者)地域療育支援事業	209件	—
	基幹相談支援センター事業 (由利本荘市)	3,059件	—
	障害者就業・生活支援センター事業	2,404件	205名

共同生活援助事業以外については、延人数

### ○健康管理

診療所を中心に、診療や検診による疾病の早期発見、早期治療に努めた。インフルエンザワクチンや職員へのタミフル予防投与など種々の感染症対策を行い、3月31日現在でインフルエンザ罹患利用者9名、ノロウイルス発生は0件だった。

死亡退所21名の内14名を診療所で看取った。ターミナルケアを必要とする利用者は年々増加している。また、高齢化・重度化に伴い痰吸引を必要とする利用者が増え、指導看護師による研修を経て資格取得した2名の支援員が口腔内の痰吸引を実施できるようになった。

### ○地域交流・社会参加

主要行事であるコロニー祭、夏祭りを告知しボランティアの参加を呼びかけ交流につなげた他、地域ボランティアグループの活動も受け入れた。地域住民への施設機能の提供としては、体育館を開放し175件、延べ869名の利用があった。また、陶芸教室や果樹もぎ取り体験を通して保育園児や高齢者施設の利用者との交流も深めた。実習・研修では、学生を中心に9件94名を受け入れた。

### ○苦情解決処理状況

今年度の苦情受付総件数は5件で、被害・損害に関するものが3件、権利侵害に関するもの1件、その他が1件であった。申出に対して速やかに対応し申出者へ回答するとともに、3月に第三者委員へ処理状況を報告し助言を得た。

【利用者の状況】

平成27年3月31日現在

○出身市町村

【施設入所】

市町村	男 女 別		計
	男	女	
秋田市	39	33	72
北秋田市	0	1	1
潟上市	6	2	8
能代市	11	11	22
横手市	20	24	44
大館市	1	1	2
由利本荘市	51	51	102
男鹿市	10	7	17
湯沢市	6	7	13
大仙市	17	9	26
仙北市	6	3	9
にかほ市	14	11	25
藤里町	0	1	1
三種町	3	6	9
五城目町	2	1	3
八郎潟町	1	1	2
井川町	1	1	2
美郷町	6	6	12
羽後町	3	6	9
東成瀬村	0	0	0
小計	197	182	379

市町村	男 女 別		計
	男	女	
秦野市	0	1	1
柏市	1	0	1
足立区	1	0	1
小計	2	1	3

	男 女 別		計
	男	女	
合計	199	183	382

【共同生活援助】

市町村	GH	わかまつ	やすらぎ	そよかぜ	わかば	しおさい	はまなす	まつかぜ	あおぞら	お月森	やまと	なでしこA	なでしこB	ひだまり	かもめ	はまやま	計
		男	男	女	女	女	男	男	男	男	男	女	女	女	男	男	
秋田市				1	1	1	1				1	1				1	7
北秋田市																	
潟上市													1				1
能代市								2	1		1						4
横手市	1	1												1		2	5
大館市																	
由利本荘市	3	1	1	1	2		1	2	2			2	2	3	3	1	24
男鹿市		1			1					1							3
湯沢市	1	1			1	1	1	1		2	1						8
大仙市		1					1						1	1	2	1	7
仙北市																	
にかほ市				1					1		1						3
藤里町																	
三種町																	
五城目町		1	1									1	1				4
八郎潟町																	
井川町																	
美郷町					1		1	2									4
羽後町																	
東成瀬村																	
合計		5	6	4	3	5	4	6	4	5	4	4	5	5	5	5	70

【診療所】

年度		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
医 科	診療日数	243日	242日	241日	240日	242日	
	延 べ 利 用 者 数	入所者	18,560人	17,660人	15,398人	14,058人	13,222人
		その他	387人	427人	497人	470人	264人
		計	18,947人	18,087人	15,895人	14,528人	13,486人
歯 科	診療日数	82日	78日	76日	78日	73日	
	延 べ 利 用 者 数	入所者	857人	835人	690人	719人	656人
		その他	19人	3人	3人	11人	2人
		計	876人	838人	693人	730人	658人
計	診療日数	325日	320日	317日	318日	315日	
	延 べ 利 用 者 数	入所者	19,417人	18,495人	16,088人	14,777人	13,878人
		その他	406人	430人	500人	481人	266人
		計	19,823人	18,925人	16,588人	15,258人	14,144人

## (6) 地域生活支援センターみずばやし

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

宿泊型自立訓練（定員10名）の平均利用率は93%であり、3名が体験利用を経てグループホームへ移行（5月・7月・2月）となった。また、関係機関との連絡調整を図ることで体験利用の受け入れを実施し、3名の新規契約に繋がった（現員10名）。

グループホーム（10棟・定員48名）の平均利用率は96.8%（入院9名、うち長期入院が1名）であり、平成25年度の3月、平成26年度の4月にそれぞれ利用者1名が亡くなったことにより、宿泊型自立訓練から体験利用を経ての移行（5月・7月）が2名あった（現員48名）。

日中活動サービスの提供日については、昨年度と同様に祝祭日等の各種イベントへの参加を営業日とすることで、稼働日数は昨年度と同様の258日であり、利用率の維持に繋がった。

就労継続支援B型（1日の利用定員14名）については、生活訓練からの移行や他事業所利用者及び在宅利用者の体験受け入れを実施し、7名の新規契約に繋がった。平成27年3月末現在、登録者は30名で平均利用率は106%となっている。

生活訓練（利用定員6名）については、平成27年3月にゆり養護学校卒業生1名と新規契約を結んだものの、平均利用率は34%と前年度よりも低い数値となっている。要因としては、生活訓練利用者のうち2名の利用者が就労継続支援B型へ移行（11月・2月）したことや、就労をしながらの利用のため利用頻度が少ないことが挙げられる。また、現在登録者は4名となっており、来年度4月より1名の利用者が就労継続支援B型へ移行予定となっている。

#### 2) 地域生活支援

宿泊型自立訓練の利用者については、家事等の日常生活能力の向上及び、職場定着に向けた支援を行いながら地域生活移行を検討、体験利用を実施し、3名の利用者がグループホーム利用へと移行した。しかし、建築基準法等に適したグループホームの増設等が難しい状況であり、7名の利用者が標準利用期間を超過しての利用となっている。

グループホーム等の利用者については、就労先への訪問や連絡調整、必要に応じた本人への聴き取りを通じて、就労状況の把握に努めながら就労継続に向けた支援を実施した。また、居住環境については適切な環境を整備する為に、大家若しくは不動産業者との連絡を取りながら整備が必要な部分については迅速に対応するよう努めた。

### 3) 就労支援

就労継続支援B型事業では、これまで実施していたネーム刺繍や灯籠作り、おみくじ折りの他に新たな委託作業の開拓に努め、他事業所の清掃業務、宅配寿司専門店からの箸等の小分けセット作業、フルーツキャップの梱包作業等を取り入れた。平均工賃月額については、前年度比38%増の総額5,936円と前年度(4,300円)よりも向上している。

また、障害者就業・生活支援センターとの連携を図り、就労継続支援B型利用者のうち3名が一般就労、1名が就労継続支援A型の利用に繋がった。

### 4) 経営改善計画の推進

制度改正とグループホーム・ケアホームの一元化に伴い算定出来なくなった加算(夜間防災緊急時支援加算Ⅰ、通勤者生活支援加算)や処遇改善加算が減額になったものの、サービス利用率向上や新たな加算(目標工賃達成指導員配置加算Ⅰ、医療連携体制加算Ⅴ)の算定により微増ではあるが増収となった。

また、利用者の負担にならない範囲での節約について意識付けを図る為に、職員会議等で光熱水費の利用状況等を報告し職員間での周知に努めた。

#### ○施設支援

宿泊型自立訓練利用者が地域生活を送る為に必要な対人関係、金銭管理、健康管理、職場定着、福祉サービスの利用等社会資源の活用に関する支援を行った。

#### ○健康管理

宿泊型自立訓練利用者及びグループホーム利用者の日々の体調把握に努め、必要に応じて各医療機関と連携を図り対応した。

また、グループホーム利用者の高齢化に伴う心身機能の低下が見られることから、10月より看護師を配置することで緊急時の対応の他、感染症予防に関する研修を実施する等の健康増進に向けた取り組みを行った。

#### ○地域社会

近隣地域主催の行事(市主催のクリーンアップ・運動会・一斉清掃デー・盆踊り等)についての情報提供を実施し、多くの利用者が地域交流を図る機会を得た。

また、養護学校の実習生2名の他、在宅障害者5名の体験受け入れを実施することで地域社会への貢献に努めた。

#### ○苦情解決処理状況

苦情受付件数は3件(利用者間トラブルによる申し出、グループホーム利用に関する近隣住民からの申し出、従業者による申し出)であった。それぞれ速やかに対応し、苦情解決に努めた。

○利用状況（平成27年3月31日現在）

1. 宿泊型自立訓練利用状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	0	1
由利本荘市	8	0	8
美郷町	1	0	1
計	10	0	10

2. 日中活動サービス（就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練））  
利用（登録）状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	1	2
由利本荘市	14	8	22
にかほ市	1		1
湯沢市	1		1
能代市	1		1
横手市		1	1
大潟村	1		1
美郷町	1		1
五城目町		1	1
平塚市		1	1
大仙市	1		1
計	21	12	33

3. 共同生活援助利用状況

援護の実施者	翼	清和	めぐみ	そら	朋	虹	三愛A	三愛B	菖蒲	若菜	計		
	男	男	女	男	男	女	男	男	男	女	男	女	合計
秋田市		1	2		1	1		1			3	3	6
横手市									1	1	1	1	2
由利本荘市	1	3	1	1		2	2	1	2	2	10	5	15
男鹿市					1						1		1
湯沢市				2				1	1		4		4
大仙市	1				1		1				3		3
大館市					1						1		1
大潟村			1					1			1	1	2
にかほ市	2			2				1	1		6		6
羽後町						1	1				1	1	2
美郷町					1		1			1	2	1	3
五城目町										1		1	1
潟上市		1									1		1
平塚市			1									1	1
計	4	5	5	5	5	4	5	5	5	5	34	14	48

## (7) 秋田県阿桜園

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

施設入所支援においては4名が契約解除（3名死亡、1名GH利用）となったが、2名が新規利用（在宅から1名、GHから1名）となり在籍67名となった。

生活介護は施設入所支援利用者65名と通所利用者7名を含め72名となり、生活訓練は新規の新たに1名が利用となり3名となった。（施設入所支援利用者2名、GHから1名）

児童施設では、新規に1名が措置入所となり在籍43名となった。

#### 2) 地域生活移行

建築基準法に伴う新規グループホーム設置に向けての情報収集及び計画、入居候補者の検討を行った。施設入所支援と生活訓練を利用していた男子利用者1名が、グループホームの体験利用を通して新たに入居することになり、地域移行する事ができた。

#### 3) 就労支援

グループホーム入居者において、月1回職場訪問を実施し、本人の状況について情報交換を行いながら継続して就労できるよう支援を行ったほか、身体状況に応じて就労支援事業所と連絡をとりながら利用回数の調整を行った。今後は、入居者の高齢化や身体状況を考慮しながら就労支援を進めていくことが課題である。

#### 4) 経営改善計画の推進

通所事業の検討・見直しを行い、平成27年度より日中一時支援事業の放課後支援部分を児童通所支援（放課後等デイサービス）として新規開設する為の準備を行うとともに、生活介護事業の職員配置を検討し、次年度以降の人員配置加算を取得する準備を行うことで、今後の事業収支の改善を推進し、より安定した事業所経営を行うことができるよう努めた。

### ○施設支援

支援課成人棟利用者の状況は、施設入所支援67名、生活介護65名、生活訓練2名である。利用者の高齢化・重度化への対応として、定期的に衣服や履物の点検、移動マットの利用や車椅子の整備確保を行い、安全に生活できるよう住環境の整備を図った。

児童棟は、経過的生活介護が37名、就学児童生徒は新規に1名が措置入所し6名となり在籍43名となった。また、高等部1名が卒業することにより、次年度は就学児童が5名となる。より良いサービスを提供するために、利用者を対象に嗜好調査や選択メニューの提供を行ったほか、保護者を対象に満足度調査を実施した。

○居宅支援・その他の委託事業

短期入所事業・日中一時支援事業においては、利用者のニーズに即したサービスを提供することができるよう受け入れ環境の充実を図った。また、放課後や長期休業中の日中一時利用については、児童生徒8名を対象に実施し、より快適な環境でサービスを利用することができるよう環境面での配慮を行った。

障害児等療育事業では、延べ人数104名に対し、訪問療育事業25件、外来療育事業365件、療育技術指導事業6件の実施であった。

相談支援事業においては、指定計画相談支援の件数が増えており、契約者186名に対しサービス利用支援、継続サービス利用支援を実施した。

委託事業等については、今後のあり方について関係機関と協議を行い、学校放課後、長期休業中の日中一時については、今後放課後等デイサービスとして実施していくことにした。

重症心身障害者を対象とした生活介護事業は、利用定員5名に対して平均利用が3.9名であり昨年より利用者数は増加している。冬期間利用を控えるケースや体調不良での欠席、短期入所利用による欠席の傾向がみられるものの、利用日変更により利用回数が増えた利用者があることや医療行為（胃ろう）を受け、入院による欠席が減少したことが増加につながっている。

重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービス事業については、長期休業中の利用希望が多くあり、生活介護利用者と調整を図りながら受入れを行った。

重症心身障害児を対象とした児童発達支援事業については、相談支援事業所や家庭相談員などへ事業説明を行うことで利用促進を図り、1名が新規に利用を開始した。また、医療行為を必要とする利用者が増えてきている状況であり、看護師と連携しながら受入れを行うとともに、介護職員等によるたん吸引等研修（第三号）を受講し、介護職員が特定の医療行為を行う準備をした。

[平成27年3月31日現在]

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業	88	36	124
	日中一時支援事業	170	110	280
	〃（放課後及び長期休業中）	992	281	1,273
	共同生活援助事業(GH)	8	5	13
	重症心身障害者（生活介護）	436 (9)	408 (5)	844 (14)
	放課後等デイサービス	53 (5)	14 (2)	67 (7)
	児童発達支援	5 (1)	0	5 (1)
その他委託事業				
	障害児等療育支援事業	319	146	465
	相談支援事業	計画相談	125	317
		基本相談（横手市）	61	273

\* 共同生活援助事業以外は延べ人数で表記、（ ）内は登録者数

## ○健康管理

嘱託医や各医療機関と連携を図り、利用者の健康管理に努めた。

通院関係は、通院延べ人数1,099名（昨年度比69名減）、救急受診者10名（昨年度比8名減）、付き添い職員数782名（昨年度比39名減）であり、入院は10名（昨年度6名）、述べ入院日数345日（昨年度比250日増）であった。精神疾患や骨折で50日以上長期入院が3名おり、入院日数が大きく増えている。また通院等が減少になった事由としては、嘱託医や医療機関との連携を強化し、定期通院で状況が変わらない方については看護師の状況報告で対処してもらうことにより、支援現場での負担軽減を図ることができた。

今年度はインフルエンザ、感染性胃腸炎等の集団感染はなかった。

## ○地域交流・社会参加について

夏祭りには利用者・家族、地域住民・ボランティアを含めて157名、阿桜園創立50周年記念式典・阿桜園祭には149名が参加し、利用者が楽しむ機会を設けたほか、ボランティアとの花植えや餅つきなどで地域住民との交流を図ることができた。地域奉仕活動では利用者自治会が中心となり職員と共に、幹線道路のゴミ拾い活動を行った。また、定期的に横手駅前、バス停の清掃活動を実施した。

## ○苦情解決処理状況

苦情受付件数は4件(家族)で、内容は職員の接遇に関して3件、個人情報・守秘義務に関するものが1件であったが、改善内容を説明し解決に至った。利用者から相談を聴く場として「何でも相談日」を毎月1回実施しニーズを把握している。年度末には、第三者委員への苦情報告会を開催し、状況報告と助言を得る場を設けた。

利 用 実 施 状 況 調

平成27年3月31日現在

【施設入所：成人】

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県 内 市	横手市	21	9	30
	湯沢市	5	3	8
	大仙市	8	6	14
	仙北市	4	3	7
	小計	38	21	59
県 内 町 村	羽後町	1	1	2
	美郷町	4	1	5
	小計	5	2	7
県 外	足立区		1	1
	小計		1	1
合 計		43	24	67

【施設入所：児童】

区分 市町村		男 女 別		合計
		男	女	
県 内 市	横手市	16	4	20
	湯沢市	5	2	7
	大仙市	7	1	8
	仙北市	1		1
	潟上市		1	1
	由利本荘市	1		1
	小計	30	8	38
県 内 町 村	羽後町	2		2
	美郷町	1	1	2
	東成瀬村	1		1
	小計	4	1	5
県 外				
	小計			
合 計		34	9	43

【共同生活援助】

市 町 村	希望	あさひ	あざみ	計
	男		女	
横手市	2	2	2	6
湯沢市			1	1
由利本荘市	1			1
大仙市		1	2	3
仙北市		1		1
美郷町	1			1
合 計	4	4	5	13

## (8) やまばと園

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

施設入所支援（定員50名）については、4月に1名退所し、5月に1名入所している。10月にはグループホームより1名入所し、51名となっている。

福祉型障害児入所施設については定員より1名欠員の9名であり、相談支援事業及び特別支援学校や市町村担当課など、関係機関からの情報収集や施設のPR活動に努めたが新規利用には至らなかった。

在宅（GH含む）からの日中活動利用者については、グループホーム及び在宅より各1名が施設入所し、長期間短期入所を利用していた方が他グループホームに入所したため、就労継続支援B型で1名、生活介護で2名が減となり、在宅利用者が15名となった。

#### 2) 地域生活移行

女子グループホームより10月に1名が施設入所となったため1名減となり、定員を充足していない状態である。

現在のグループホーム2棟を次回更新時の平成31年度までに関係法令に適合するよう対応していくことを優先的に取り組むこととし、賃貸物件対応の可否について建設会社に打診した。

#### 3) 就労支援

稲川養護学校と連携を図り、高等部3年生1名が一般就労することとなった。

また、以前より一般就労している利用者については、定期的に職場訪問を行い、就労上の様々な相談を受け、助言を行うことで仕事に対する意欲の向上、維持を図った。

#### 4) 経営改善計画の推進

財政基盤の強化として、引き続き日中活動事業における利用者の受け入れ促進を継続している。光熱水費に関しては、サービスに支障がない範囲で経費節減に努め、照明のLED化も推進させた。

また、新規通所利用者を確保するために送迎サービス等を充実させるとともに、利用者の外出機会を増やすことに努めた。

### ○施設支援

施設入所支援51名、生活介護54名（うち在宅8名、GH1名）、生活訓練は4名、就労継続支援B型10名（うち在宅2名、GH4名）が利用している。

施設入所支援では、55歳以上の中高年層で身体機能の低下による車イスの使用など、より介護を要する利用者が増加している。生活介護においても利用者の高齢化等に伴う重度化が見られるなど、支援内容の見直しが課題となっている。

このため、今年度は成人の男子及び女子トイレの個室の扉をカーテンにし、手

すりを取り付けることによりシルバーカー使用者等でも使いやすいように改修するなど、設備面で利用者に配慮した環境を整えた。

生活訓練は前年同様4名である。就労継続支援B型では利用者が1名増えて10名となった。平均工賃月額4,072円で目標の4,000円を上回る額を支給することができた。石鹼製品等の販路拡大を目指し、他施設の行事や地域の大型イベントへ積極的に出店し、実演販売を行うなど収益アップとPR活動に努めた。

福祉型障害児入所施設の就学児4名に対しては、養護学校と定期的に情報交換を行い、様々な活動を通して基本的な生活習慣及び社会性の向上を図ることができるよう努めた。

### ○居宅支援・その他の委託事業

平成26年度は継続して湯沢市、羽後町、東成瀬村の相談支援事業と湯沢市、羽後町、横手市、東成瀬村の日中一時支援事業を受託したほか、新たに美郷町の日中一時支援事業を受託した。それにより昨年度以上に地域における在宅支援の積極的な受け入れに努めた。

短期入所・日中一時支援事業の利用では、個別対応を要する方及び緊急性のある利用者が増加し、居室の確保や職員配置の調整等受け入れ態勢の構築を要するなど課題もみられた。

相談支援事業については、園利用者の計画相談が今年度末までに終了することができた。

いずれのサービスにおいても関係機関等との調整を図りながら、利用者ニーズに沿ったサービスを目指し、柔軟な対応に努めた。

(平成27年3月31日現在)

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業	137件	74件	211件
	日中一時支援事業	911件	108件	1,019件
	共同生活援助事業	5人	4人	9人
	相談支援事業	551件	235件	786件
その他の委託事業				
	障害児等療育支援事業	375件	126件	501件
	養護学校児童生徒放課後生活支援事業	670件	1,134件	1,804件

\* 共同生活援助事業以外は延べ件数

## ○健康管理

嘱託医による内科検診や医療相談、医療機関での利用者の定期受診を行い、また職員健康診断の実施や産業医による職場環境の改善により、利用者と職員の健康管理に努めた。特に胃検診に関しては誤嚥性肺炎予防のため、胃透視検査から胃カメラ検査に変更した。感染症に関しては昨年度の反省を踏まえ、利用者の健康状態を細かくチェックし、素早い対応をした結果、集団感染を予防することができた。今後も感染症防止マニュアルを再確認し、利用者の受入時の健康チェック等を徹底することを全職員で確認した。

平成26年度より看護師が定期的にグループホームを訪問し、栄養士と連携して感染症予防、食事指導等健康指導を行った。

## ○地域交流・社会参加

園行事等には地域住民25人、ボランティア8人の参加を得たほか、天理教ボランティアとの花植え、栗拾い招待など地域住民との交流が継続された。また、湯沢市社会福祉協議会が運営する地域憩いの場の喫茶コーナーには利用者が給仕として参加し、地域住民と交流する機会となっている。社会貢献として、冬期間の除雪ボランティアへ登録し、独居老人宅の除雪依頼が1件あった。また稲川養護学校の環境美化運動に参加した。

実習面では、短大・専門学校など1校3名の学生を受け入れ、今後の福祉従事者の育成に努めた。また体験実習で稲川養護学校教職員1名を受け入れた。

## ○苦情解決処理状況

苦情申し出件数は7件で、サービスに関するものが5件、施設・設備に関するものが1件、説明・情報提供に関するものが1件であった。苦情委員会で内容を調査の上、申し出者へ回答し了解を得ることができた。3月には第三者委員への報告会を開催し、助言をいただいた。

また、利用者からの「何でも聞きます会」を毎月1回開催し、利用者のニーズ把握と支援内容の改善に努めた。

利用実状況調

平成27年3月31日現在

【施設入所：成人施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内 市町村	秋田市		3	3
	北秋田市	1		1
	潟上市			
	能代市			
	横手市	5	3	8
	大館市			
	由利本荘市	2		2
	男鹿市			
	湯沢市	15	5	20
	大仙市	1		1
	にかほ市			
	鷹巣町			
	美郷町	1	1	2
	羽後町	4	6	10
東成瀬村		1	1	
県外	横浜市		1	1
	伊東市	1		1
	八王子市		1	1
合 計		30	21	51

【施設入所：児童施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内 市町村	秋田市			
	北秋田市			
	潟上市			
	能代市			
	横手市	1		1
	大館市			
	由利本荘市			
	男鹿市			
	湯沢市	4	1	5
	大仙市	1		1
	にかほ市		1	1
	鷹巣町			
	美郷町			
	羽後町	1		1
東成瀬村				
県外	横浜市			
	伊東市			
	八王子市			
合 計		7	2	9

【共同生活援助（グループホーム）】

市町村		区分		計
		バッテリー	のどか	
		男	女	
由利本荘市			1	1
湯沢市		3	2	5
にかほ市		1		1
美郷町				
羽後町		1	1	2
合 計		5	4	9

## (9) 秋田県身体障害者更生訓練センター

### ○施設運営の概要

#### 1) 利用状況

自立訓練（機能訓練型）期間終了後の選択肢のひとつとなる生活介護サービスを併設して、自立訓練（機能訓練型）、生活介護、施設入所支援、短期入所、日中一時支援の各サービスを提供した。

その結果、自立訓練から生活介護サービスへ移行した方は9人、年間の平均利用者数は施設入所支援が48.6人で、定員に対して81%、自立訓練が29人と定員に対して96.6%、生活介護が28.3人で定員に対して70.1%と利用率は決して低くない状況にある。

また、利用者数に関しては入所14名、退所11名、通所では新規利用3名、利用終了8名となっている。

#### 2) 経営改善計画の推進

利用促進と施設の紹介を兼ねて毎年実施している県内各市町村の福祉担当課への訪問に加え、今年度は医療機関、地域包括支援センターへの訪問を実施した。

9月以降の新規利用者が13名となっており、訪問の効果があったと判断出来る。また、ホームページを見ての問い合わせも増えてきている。しかし、新規の利用者は秋田市以外の地域の方が多く、通所利用者については減少傾向にあり、送迎体制加算を受給していたが、現在では月平均の送迎車利用が10名以下の6人台となることが多く、送迎体制加算を受給出来ない状況にある。

年間の収入については昨年よりも約400万円の減収となっているが、平成24年度の収入よりは上回っている。

光熱水費の削減については、職員会議で前月の電気等の使用量を職員に周知することで経費の節減を呼び掛けた。また、真夏日の減少、降雪の少ない状況等により使用量は減少した。

### ○施設支援

#### 1) 自立（機能）訓練（定員30名）

##### ○作業療法

嘱託医の指示及び支援計画検討会議をうけて個別訓練を実施、1コマの人数を少なくし、マンツーマン対応に近い状況を目指した。また、自主的な取り組みが可能となるような支援を心がけた。

O T集団訓練については言語訓練のグループと利き手交換を主としたグループを作り、地域生活訓練の担当職員と共同で実施した。地域生活訓練の職員全員が関わる体制作りを行い、職員全員が利用者の状況を把握できるような取り組みを

行った。言葉のリハビリの希望者の状況が幅広いため、今回は3グループで実施している。

来年度は、将来の方向性として「家庭復帰」、「単身生活」を現実的に目指す方々への対応を強化し、集団OTについては希望者の多い言葉の練習への対応を厚くするため、対応職員のマニュアルを作成する予定である。

## ○理学療法

嘱託医の処方及び支援計画検討会議に基づき、利用者に対し理学療法評価・訓練を実施するとともに、運動訓練の支援を行った。

新規利用者や身体症状の変化のあった利用者の訓練処方を受けるため、または、補装具購入費支給申請の医師の意見書作成のため嘱託医の診察に立会った。

(H27年3月現在 15件)

杖、下肢装具、車椅子等の新規作製時や修理の際は必要に応じて医師や作製業者と検討し、適合状態をチェックし、市町村への補装具費購入・修理支給申請の手続きを支援した。

理学療法の実施は、個別訓練は自立訓練の利用者を中心に行ない、生活介護の利用者については主に自己訓練として行う予定であったが、生活介護の利用者数の増加と機能低下に伴い、生活介護の利用者に対する個別訓練の必要性が増えている。このため新規利用の方や自立訓練の訓練時間の確保が今後の検討課題となっている。

理学療法、運動訓練の対象ではない生活介護の利用者に対する身体状況の評価と機能維持のための活動について検討が必要である。

運動訓練班との連携では、今年度より運動訓練の一部に参加して実施している。この部分については運動訓練職員との連携が図られている。しかしながら、理学療法のニーズの増加に対して応えられない状況もあり、検討が必要である。

施設入所支援利用者については障害者総合支援法の補装具費購入申請の基準が厳しくなっていることから、車いすの必要な入所利用者へ訓練センターの備品として貸し出している車いすの使用は例年以上に長期間の使用となっている。故障、破損した場合の修理、更新は予算の都合もあり迅速に行いたい、難しい状態である。この件について、福祉用具貸し出し規程の作成を検討中である。

## 2) 生活介護（定員40名）

昨年度までは、生産活動として各種軽作業を行い、収入を工賃として利用者へ還元していたが、利用者の重度化等の理由により定期的な出荷ができなくなり、中止している。

今年度は、機能回復を強く望む方々への理学療法や作業療法その他、地域移行を前提とした施設であることを念頭に利用者自身が選択して行う個別活動や合同で行うレクリエーション的なグループ活動等も組入れ、機能低下防止を図った。

### 3) 施設入所支援（定員60名）

新規利用件数は14件、退所者数は8名であり、年度当初は利用者数の減少に苦慮したが、後半に入所が相次ぎ50人台の利用を継続している。

### 4) 通所支援

年度当初22名の登録者であったが、3月時点では17名と減少している。昨年度通所利用の確保を目的に特別支援学校の実習生受け入れを実施し、4月から新規で1名が利用している。今年度も1名の実習生の受け入れを実施したことにより、平成27年4月から新規の通所利用を開始する予定である。

2便体制で送迎を実施し、冬期間は出発時間を早めて利用者の便宜を図ってきたが、一日当りの平均利用実績は6～8名程度となっており、送迎体制加算の受給が出来ない状況となっている。今後通所利用者の確保は急務と思われる。

### 5) 相談支援

平成27年度末までに福祉サービスを利用している方のサービス等利用計画を完了する旨秋田市から指示があり、相談支援専門員2名専従体制で臨んだ。結果としては、172件（新規58件、継続114件）と昨年度と比較し、41件の減少となった。

### ○居宅支援・その他の委託事業

終了者は他施設利用が4名、家庭復帰が4名となっている。また、通所の1名の方については、障害者雇用として就労につながっている。

地域移行を希望している方については、パンフレットの提供、更には施設見学等を実施して支援を行った。

委託事業としては、秋田市、由利本荘市、男鹿市から日中一時支援事業の委託を受けているが、年間の利用実績は一般の日中一時支援が延べ18件、短期入所が延べ12件と昨年度よりも多くなっている。入所利用を希望されていた方の体験的な意味合いがある利用、地域移行している単身者の体調不良時の受入れ等が増えている。

### ○健康管理

春季健康診断54名、結核検診13名、視力検査64名、秋季健康診断59名、インフルエンザワクチン接種62名、血圧測定は毎月実施した。

通院回数は年間延べ1,008件と昨年よりも50件程増加、通院付添回数も年間延べ344件となっており、こちらも増加傾向である。要因としては疾病の多様化、合併症等の為複数の診療科目への通院が増えていることが挙げられる。

入院者については、18名で昨年度とほぼ変わりなく、入院者の内訳を見ると

フォローアップ、リハビリ目的の入院がみられたが、昨年度よりは減少している。

また、救急受診者も12名と減少してはいるが、今後も基礎疾患の管理には留意していく必要がある。

#### ○地域交流・社会参加

実習生は9件、23名、ボランティアの参加は4件、34名と昨年度とほぼ同数となっている。秋に実施した健康講話については例年通り地域の方へ参加を呼び掛けたが、参加はなかった。

買い物が難しい利用者のために、地域にあるコンビニエンスストアから月に1回の出張販売を行ってもらったり、その店舗に訓練センターのPRを兼ねて栽培した紫陽花をセンターの紹介文を添えて無料で配布した。

#### ○苦情解決処理状況

- ・受付件数10件（上半期9件、下半期1件）

内容の分類

サービス内容（職員の接遇）… 1件

サービス内容（サービスの質・量）… 2件

その他… 7件

内訳：①個人の希望・要望… 2件

②他利用者とのトラブル… 4件

③上記に該当しないもの… 1件

- ・対応について

10件のうち8件は職員の相談援助で解決が図られた。その他1件は、委託先の給食業者への苦情でもあったため、業者への働きかけも含めて対応した。残りの1件に関しては、3月の受け付けのため、現在解決に向けて取り組んでいるところである。また、必要に応じて職員へ注意喚起するなど職員の接遇改善やサービスの質の向上に努めた。

利用者間のトラブルに関しては、何度も話し合いを重ねるが、お互いの歩み寄りが難しいため妥協点も見つけづらく、根本的な解決は難しい。

苦情という形ではなく、「話をきいてもらいたかっただけ」等『相談』という形となるケースも多い。今後も引き続き、利用者の方々へ寄り添った支援と話しやすい雰囲気づくり、苦情、要望の申し出をしやすい環境づくりが必要である。

# 利用者状況一覽

平成27年3月31日現在

## 1 利用者状況

障害支援区分	区分1	0
	区分2	12
	区分3	28
	区分4	19
	区分5	6
	区分6	2
	無	4
計	71	

## 2 市町村別利用状況

	性別		計
	男	女	
秋田市	38	8	46
能代市			
大館市			
鹿角市	1		1
北秋田市	2		2
潟上市	1		1
男鹿市	3		3
由利本荘市	5		5
にかほ市	1		1
大仙市	0		
横手市	2		2
湯沢市	2		2
仙北市	2		2
羽後町			
小坂町			
五城目町	1		1
三種町			
美郷町	2		2
藤里町			
八峰町			
東成瀬村	1	1	2
八郎潟町	1		1
合計	62	9	71

## (10) 秋田県点字図書館

### ○利用状況

平成26年度の個人新規登録者数は8名、登録抹消者は18名で、登録者数は696名となる。ここ数年の新規登録者は10名前後で大きな変化はないが、昨年度は登録抹消が目立った。やはり高齢によるものと思われ、視覚障害者情報機器展示会での広報活動や盲学校生徒への働きかけ等、より一層のPR活動が必要と思われる。登録団体数は373団体となる。

奉仕者等による施設の利用状況については、録音室(4室)の延使用者は1,179名で利用率<sup>(注1)</sup>54%、研修室の延使用者は1,390名で利用率<sup>(注2)</sup>45%である。図書の貸出件数は8,386タイトルで、前年度を711タイトル下回った。前年度比利用率は、点字図書0.9%減、デジター録音図書<sup>(注3)</sup>1.1%増、テープ録音図書1.6%減である。全貸出数に対するそれぞれの比率は、点字図書7.5%、デジター録音図書80.8%、テープ録音図書11.7%である。

点字図書の利用減少は触読利用者の高齢化によるものや、若年層はより多くの情報ツールに接していることも推測される。

<sup>(注1)</sup> 1室を午前と午後で延べ2名利用可能とする。故に1日最大延べ人数8名として算定した。

<sup>(注2)</sup> 2室ありパーテーションを開けて多人数にも対応可能。利用率は年間の開館日数を基準に実利用日数から利用率を算定した。

<sup>(注3)</sup> デジタル規格の録音図書を「デジター録音図書」と呼ぶ。視覚障害者等のための録音図書は、著作者の許可を得ずとも作成でき、専用の再生機のみで聞くことができる。

### ○情報提供

- ・利用者からの資料に関する問い合わせは24件で、検索機能を活用して職員が調査し、情報を提供した。(レファレンスサービス)
- ・電話リクエストによる利用者の希望する新聞記事の読み上げを月曜日に40回実施し、80件の情報を提供した。(テレホンニュースサービス)
- ・点字、録音、大活字、テキストデジターによる「点字図書館だより」を毎月発行し、当館の新刊案内や新書の紹介、その他の様々な情報提供を行った。
- ・視覚障害者情報機器の展示会を10月に開催し、利用者や他の視覚障害者へ最新の情報機器の紹介と図書館サービス案内を行った。(参加業者 県内2社 県外2社 参加者80名)
- ・点字・音訳刊行物を延べ12,218部発行し、様々な情報を提供した。
- ・利用者から依頼を受けての図書等製作や複製等のプライベートサービスを行い、個人が必要な情報を数多く提供した。

製作(点訳84件・テープ0件・デジター22件・テキストデジター2件)

複製(62件)

## ○図書の製作等

点字図書131タイトル（455冊）、テープ録音図書1タイトル（8巻）、デージー録音図書104タイトル（104枚）を製作し、蔵書として受け入れた。タイトル数は前年度比では1パーセント（22タイトル）減少しているが、減少率としては前年度比22パーセントからは下がっている。

平成26年度分の蔵書に占める当館製作率は64%、厚生労働省等からの委託図書33%、購入0%、寄贈3%である。

## ○地域生活支援事業

### ・奉仕者養成事業

点訳・音声訳奉仕者養成講座を6月から3月まで、各30回開催した。その結果、点訳3名、音訳4名が修了し、当館奉仕員として登録することができた。

なお、修了生は今後2年次研修を行い、資質（技術）の向上に努めていく。

### ・即時情報ネットワーク事業

日本盲人連合会が提供する毎日の新しい情報を点字版で7名、延べ1,929名に、電子メールで12名、延べ2,628名に提供した。

### ・声の広報等発行事業

録音版の「県議会だより」を年4回、「県政だより」を年6回製作し、県議会だよりを延べ720部、県政だより「あきたびじょん」を延べ882部発行した。利用実人員は、291人である。

## ○会議等の開催

### ・ボランティアグループ代表者会議（4月）

### ・点訳奉仕者研修会

視察研修会「秋田県立盲学校」（11月）

参加者40名

### ・奉仕者表彰式（11月）（館長表彰感謝状8名 館長表彰奉仕活動記念賞14名）

### ・利用者、職員、製作ボランティア、苦情解決委員及び開催地行政担当者との懇談会

6月：秋田市 参加利用者 9名（付添者3名含む）

9月：由利本荘市 参加利用者 10名（付添者4名含む、盲導犬1頭）

### ・平成26年度の苦情（相談等）は無く、3月の苦情解決委員会で報告した。

## ○地域交流等

### ・「中学生の職場体験」を1回（生徒2名）受け入れ、貸出・蔵書管理体験を実施した。

### ・夏休みの親子での点字図書館見学（見学者5組13名）、小学校町探検（生徒5名、保護者1名）、小学校からの点字図書館見学、点字体験学習（児童69名、

教師5名)、盲学校からの点字図書館見学(生徒2名、教師2名)に対応し、点字への関心を深めた。他、随時の見学に対応して地域社会との交流を図った。

- ・点訳ボランティアの協力により小学校での点訳指導を行った(秋田市1校、大館市1校)ほか、音訳ボランティアの協力により、市(能代市、由利本荘市)の声の広報発行に携わっているボランティアへの音訳指導を行った(3件)。
- ・学校、団体等の依頼により、点字器の貸出に対応した(7件)。

#### ○公共情報への協力

- ・国、地方自治体からの公報等の点訳・音訳の依頼に応え、ボランティアの協力により点訳版、音訳版製作を行っているが、平成26年度は日本盲人委員会衆議院議員選挙音声版の1件であった。

#### ○経費の節減

指定管理施設であることを自覚し、毎月の職員会議において光熱水費等の使用状況を周知するとともに、特に節電については目標を定め運営費の節減に努めた。

年間の図書受入状況

(H26. 4. 1~H27. 3. 31)

	点字図書		テープ録音図書		デジター録音図書		合計	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数	タイトル	数
厚生省委託	55	162	0	0	65	65	120	227
自館製作	131	455	2	10	104	104	237	569
複製	0	0	0	0	0	0	0	0
購入	0	0	0	0	0	0	0	0
寄贈	3	18	0	0	9	9	12	27
合計	189	635	2	10	178	178	369	823

年間の図書貸出状況

(H26. 4. 1~H27. 3. 31)

	点字図書		録音図書		デジター図書		合計		タイトル 構成比
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数	タイトル	数	
0 総記	9	38	5	38	39	39	53	115	0.6%
1 哲学	33	93	24	134	144	144	201	371	2.4%
2 歴史	24	88	37	257	157	157	218	502	2.6%
3 社会科学	35	163	42	268	158	158	235	589	2.8%
4 自然科学	38	140	33	188	194	194	265	522	3.2%
5 工学	8	26	12	67	46	46	66	139	0.8%
6 産業	8	23	6	32	22	22	36	77	0.4%
7 芸術	19	74	25	169	117	117	161	360	1.9%
8 語学	4	13	6	35	27	27	37	75	0.4%
9 文学	448	2,058	791	6,502	5,875	5,902	7,114	14,462	84.8%
合計	626	2,716	981	7,690	6,779	6,806	8,386	17,212	100%